



須磨明石より取り寄せた「黄賓閣跡」のクロマツは300年
過ぎた今でも12本が健在。2018・8 筆者撮影



水戸の心



1947年生まれ。茨城県水戸市出身。東京での学生生活から23歳になって造園をやるうと京都へ。水戸へ戻り32歳で独立(株)植幸)。2020年「現代の名工」になる。2000年、水戸市出身の(故)北村信正会長に勧められ茨城県支部発足。興味がある造園家…夢窓疎石

とびた ゆきお
飛田 幸男

2021 (令和3) 年6月、緑と水の市民カレッジの【ウェブ講座

(動画配信)「江戸大名庭園の見どころと庭園技法 小石川後樂園」の

講師を務めた龍居竹之介名誉会長は、講座の中で特に「水の扱い」について詳しくお話しされました。神田上水から引き入れた水は、一つは地下(暗渠)を通じて通天橋のすぐ後ろの小さな穴から落ち、そして大堰川となります。もう一つは円月橋下をゆったりと流れ、白糸の滝と菖蒲田の二方向に分かれます。特に暗渠については水戸藩二代藩主徳川光圀公の発想に興味を覚えました。

光圀公(義公)は水戸から20キロメートルほど北の山間に「西山荘(西山御殿)」を建てて隠居します。御殿の正面に見える滝は、山の中腹の石組に空いた小さな穴から流れ落ちていきます。どうやら南側奥の池から暗渠で導いているようです。

また、ひたちなか市(旧那珂湊市)に1698(元禄11)年、湊御殿と言われる「黄賓閣」を建てました。海を望む段丘の上にあり、西山荘とは真逆の地形なので日和山に明石から取り寄せたクロマツを植え、その間から大海を眺め、麓に川原を模した枯山水をつくりました。川原には小石川後樂園の大堰川にあるような蛇籠が据えてあり、雨天の時は御殿南庭付近の水が流れ込み、南東の崖から排水していたようにも見えます。

1842(天保13)年、九代水戸藩主斉昭公は日本三名園の一つ「偕楽園」を造園しました。西側の杉山の中にある「吐玉泉」の湧き水は、周りの法面に通した暗渠から集められています。また、さらに西側にある桜山の斜面を利用した日本最古の噴水と言われる「玉龍泉」はサイフォンの原理を利用して2〜3メートルは吹き上がります。

光圀公は、1657(明暦3)年から『大日本史』の編纂を始めますが、これは水戸学の基盤となり吉田松陰などに影響を与えました。斉昭公の七男で、江戸幕府十五代将軍徳川慶喜公は、後々継承について「唯庭訓を守りしに過ぎず。…水戸は義公以来尊王の大義に心を留めたれば、父なる人も同様の志にて、常々…」という言葉を残しています。

このように200年を過ぎてもなお、親の教えを受け継ぎ伝えていく「水戸の心」は、庭の継承にも通じる思いであると感じています。(評議員・茨城県支部長)

庭に向かう私の姿勢

第3回『雪国の庭づくり』

まるやま みちたか
丸山 道隆

2023(令和5)年7月30日(日)オンライン

はじめに

私が住んでいる上越市は新潟県の南西部、上越地方に位置しています。現在、上越市は人口18万人ほどですが、年々人口が減っています。自宅兼事業所は平野部の田んぼの中にはポツンとある一軒家です。日本海には車で30分、妙高山や石打などのスキー場にも車で30分くらいのところ です。

上越市は雪の多い地域で、近くに造園関連の材料屋はありません。高速道路を使って北へ1時間半ほどいったところに保内^{ほない}という植木の生産

丸山道隆プロフィール



1975年生まれ。父の代から造園業をはじめて2代目。高校卒業後、京都の藤井稔氏(藤井造園)に師事。7年修行後、

地元へ帰り、丸山隆光園を創業。現在、6人の従業員と公共施設から一般住宅まで施主様の希望に沿った庭づくりを提案している。

地があります。植木はそこと関東地方から春先に仕入れ、我が社の畑に植えておき、庭づくりに用いています。今は雑木を多く植えています。

以前は土日も家を空けられないうらいお客さんが多かったのですが、最近はお客さんが多くなりました。それでも、我が社は上越市の中では材料を持っている方ですので、仕事仲間や町内のお客さんからの注文もあります。

日々の水やりや畑管理は大変ですが、土地がある以上は仕事に繋がれる材料を置いています。その他、石も好きなので置いています。

畑管理の中でも冬囲いは大変な作業です。雪の量はその年によって全く違いますが、樹高の低い木はどうしても雪に埋もれますし、常緑樹は凍傷になるので、1本1本縄で冬囲いをしてしています。その作業は家内に担ってもらっています。畑には冬囲いをしなくても良い幹のしっかりし

た樹木も置いているので、お客さんにはそういった樹木をすすめています。雪は早ければ12月10日ぐらいから翌年の2月いっぱいまで降っては積もり、一面白い世界になっています。それだけの雪が山や平野に降り積りますが、3月下旬にはほぼ溶けてしまうので、土は十分水分を含み水不足にはならず、植物は元気に生育します。

上越市は昔からの城下町で、特に高田という地区は、植物や庭を大事にされている方が多いです。特に雪が溶けて一斉に全てが活動するサク

ラが好きです。それでは、雪国での作庭例を紹介します。

K亭(上越市)店舗の庭(図1)

空き家をリフォームした居酒屋の庭です。店舗のテーマが「金沢の料亭」なので、庭もそれをイメージしながらつくりました。幅がせまく奥が深い敷地です。まず、正面に見える隣地の外壁の目隠しに建仁寺垣を考えました。私は建仁寺垣が好きでよく製作します。雪にも耐えるし、



図1 K亭(上越市)店舗の庭 2023.4.29撮影

長持ちするからです。雪に耐えるように、単管で骨をつくって三州瓦を上に乗せた構造にしています。風通しを考慮して立子は地面に埋め込まず裾を少し空けています。建物側はコンクリート打ちでしたが、瓦の四半敷き貼りにしました。植栽はなるべく線の細い木で柔らかな感じを出すようにしました。

私は最近、そよそよした柔らかな雑木を植えることが多いのです。春先から県内外の市場に通っては、その都度、使えるものを買って求めて、わが社の畑に植えて養生しています。この庭では新規につくったのは建仁寺垣だけで、石材や燈籠は全て元々あったものを使用しました。

樹下美術館（上越市） 山中のよそおい（図2）

地元のお医者さんが美術館を建てられました。主に上越市の陶芸家斎藤三郎の作品が展示されています。10年以上前に外周りの仕事をしました。海沿いの砂地で、掘りやすかったのですが、砂地に木は育つのかと思いつながら、サクラやシデの小さい木を植えました。根周りに植栽土を多く入れて、水やりも十分にしたので、今では木の下で休めるくらいに成長しました。



図2 樹下美術館 山中のよそおい 2023.5.30撮影

外周はオープンになっており、芝生の周りには園路を設け、ぐるりと歩けるようになっています。一年中庭に出て楽しめるように、園路沿いに草花をたくさん植えています。管理をしっかりとしているので、いつ行っても綺麗です。今ではちょっと知られる場所となり、訪れた方がカフェスペースで楽しんでいます。

K邸（上越市） 京都らしさをぞんぶんに（図3）

この庭はつくって17年目になります。施主は京都に単身赴任していたのですが、退職を機に上越市に戻ってきました。京都では毎週のように

あちこちの庭や寺を見に行くのが好きだということ、ここでも京都にしているような空間にしてほしいとの要望でした。

京都というところまず頭に浮かんだのが枯山水と目隠しの竹垣、そして瓦でした。そこで、それらをもとに設計しました。枯山水の流れをきっちり止めないで、まだ先にも流れが続くように見せるため小さい橋を設けました。この石橋の向きなど相当悩んだのを今でも覚えています。

建物の外壁は化粧ブロックとレンガ調でした。本来、この化粧ブロックもない方がよかったのですが、壊しましょうとは言えませんでした。



図3 K邸（上越市）京都らしさを存分に 2023.6.20撮影

施工当初は赤かった化粧ブロックがだいぶ年数を経てコケがのって、建仁寺垣と同じような感じになってきましたので、今は良かったのではと思っています。

N邸（上越市）版築土塀（図4）

工務店の設計でつくった版築と植栽です。初めはブロックで玄関の壁をつくる予定でしたが、できるだけ自然素材を使ってほしいということで、地元の土で版築をつくりました。植栽も窓から枝葉が見えるようにアオダモとモミジを植えました。冬は縄で互いに引っ張りあった冬囲いをしています。



図4 N邸（上越市）版築土塀 2021.6.8撮影



図5 F邸(上越市)木曽石のアプローチ 2023.6.10撮影

私は上越市で3、4箇所ほど版築をつくっていますが、毎回いろいろ工夫しています。版築に使う真砂土がこの辺にはないので、地元で一番版築に向いている土を建材屋から購入しています。それを1日かけて篩い、トンバグに詰めて現場に持ってきていきます。地元の粘土系の赤い土で模様をつけました。

地元では必ず雪の話になります。雨や雪を弾くように天端をできるだけツルツルにしています。屋根をつけようかとも考えたのですが、くどくなったり重たくなったりするので、土だけでしっかりと叩いてツルツルにしています。トップコート塗料を塗ると、表面が保護されて良



図6 Y邸(上越市)三川石の石畳 2022.8.29撮影

いと聞きましたので、今度それを試してみようかなと思っています。だいたい年数が経ったものでも効くのか、施工した土が完全に硬化する前に塗った方がいいのかなど、いろいろと試していきたいなと思っています。

F邸(上越市) 木曽石のアプローチ (図5)

上越市は、大人1人に1台、必ず車を持つ土地柄ですので、若い夫婦世帯でも2台は車を持っています。このお宅の奥さんはいずれ英語教室をしたいということで、何台か車を止められるようにアプローチのわだち部分をコンクリート敷で施工しました。

庭をイメージするときは、建物の外壁や雰囲気や大事にして、その家にあった感じにしたいということがまず念頭にあります。アプローチは、初め施工はコンクリート敷で良いとのことでしたが、コンクリート敷では味気ないし、石敷の方が似合いますよと提案しました。

Y邸(上越市) 三川石の石畳 (図6)

施工は若い方で、草対策をメインとした庭づくりを依頼されました。単に砂利を敷くよりはと石敷きを提案しました。掃き掃除に使っていたようにプロアーを渡してあります。いつ行っても落ち葉もなく綺麗になっています。石敷きの中に長さ3mほどの六方石を据えてベンチ代わりにしました。

石敷きに使った青栗石は新潟県下越の三川で採れる石です。直径150から200ミリメートルぐらいから細かい砂利もあります。今は手に入らなくなっています。



図7 自邸(上越市)挑戦の版築 2023.6.10撮影

自邸(上越市) 挑戦の版築 (図7)

10年ほど前に自宅を新築しました。このときは自分の中で版築がブームでしたので、版築の壁をつくりました。高さは2・8メートルあります。玄関の脇の幅も60センチメートルぐらいあり、壊れたらまたつくろうと思っていました。何回か地震にあいましたが、それほど被害はありません。使った土は全て地元の粘土系の赤土です。自社の畑の黒くて粒の粗い土に、建材屋で篩ってきた土と白セメント、石灰等を入れて、突き固めました。施工中、砂利が崩れてしまうので、スプレーボンドとスプレー糊を入れて試したら、垂れてしまいました。版築はどうしても突き固めるので、出来上がりのボリウムは10立方メートルぐらいでし

たが、結局20立方メートルぐらい土量を使いました。

冬は薪ストーブで過ごしています
が、土の壁はずっと熱を持っています
ので、朝起きても熱がじわじわと放出
されているような感じで暖かいです。

Y邸（上越市）玉石積（図8）

上越市には、川から拾ってきた玉石で矢羽根積の石積を道路と家の敷地の境にしている家が多くあります。

このお宅も地元産の玉石がたくさんあり、それを何とかしてほしいという事で敷地境界に石積をしました。地元では石の大きさを揃えて矢羽根積することが多いのですが、せっかく大小の石があったので、それ



図8 Y邸（上越市）玉石積 2023.6.10撮影

らを組み合わせせて積みました。ここは新設道路のため5メートル分の積み直しをすることになっています。同じ積み方がいいのか、違った積み方にしようかと検討しているところです。

このように積み直しの仕事もありますが、玉石だけで積める人が少ないので、玉石も扱えるようになって、仕事につなげたいと思っています。

おわりに

上越市での造園作業の年間スケジュールをご紹介します。

3月は冬囲いを撤去する仕事があります。上越市はドウダンツツジの生垣が多く、冬には杭と竹で生垣のほぼ全体を挟みこんで雪から守っています。春になったら「垣根直し」といって、それを直します。雪の降らないところでは、杭に横段の竹を片面だけ通して苗木を結ぶような形の支柱をしていると思いますが、上越では雪から木を守るために、倍の量の竹を使って挟んでいます。

4月から6月ぐらいまでは、庭工事や植栽工事をして、7月から9月は大体剪定作業です。冬は雪がたくさん降るところなので、冬場は外に出て庭を見ることは少なく、大体お盆の頃に親戚の方やお客さんが来ら

れるので、その時期に合わせて剪定など樹木の手入れをしています。9月ぐらいまでに剪定を終わらせて、庭工事や植栽があれば10月にしています。

11、12月はほぼ目一杯冬囲い作業になります。夏の剪定で10人工商かか
る庭でしたら、冬囲いも10人工商ぐらい
いかります。上越では庭を大事に
している方が多く、夏の手入れにも
お金を使いますし、冬囲いの作業で
も同じぐらいの金額を使います。

最後に除雪のお話をします。公道は、朝7時、通勤通学前に土木業者が全路線の除雪をしています。除雪機は、一軒に一台はあって、車庫の前とか、玄関の前は各々で除雪をします。車を出せるように朝早く起きて、除雪をして出勤するのです。

造園業者にとっては、冬場の雪下ろしは冬のいい仕事ですが、雪が落ちることや除雪のことを考えないと庭がつかれないというのがこの地域の特徴だと思います。（正会員）

（写真は全て丸山道隆撮影）

受講感想

たがみともあき
田上 智明



1962年生まれ。鹿児島県鹿児島市出身。鹿児島経済大学卒業。株式会社ビーテック代表取締役（電気・電気通信・管工事業・アネチワークス代表（庭園施工・管理、庭園デザイン

業）好きな庭…金地院庭園、無鄰菴。尊敬する人物…七代目小川治兵衛 小堀遠州。

新潟県上越市という豪雪地帯で造園業を営まれる丸山氏。雪の少ない関東地方に住む私から見ると「雪とともに生きる、そして庭園と生きる」という、自然との調和や四季の移り変わりを感ずる素敵な環境と感じていた部分がありましたが、現実には1年の4分の1は雪に閉ざされ、その前後も雪囲いの設置や取り外しの対応があるという、まさに雪対策を中心に生活や事業が回っているという現実に驚きました。

丸山氏は石や土の建材類に関しても地元産出の材の活用、お客様の手持ちの材の活用を重視され、地場材の有効活用、材の再利用とコストの削減にも注力されている点も興味深く、また土塀や版築など新しい分野にも積極的にチャレンジされている姿が羨ましくも思えました。

雪が降り積もる中で生きること、自然のサイクルと調和し、その美しさや厳しさを受け入れることを意味しているかもしれない。寒さや雪がもたらす厳しい条件にも耐えながらも、自然との共生や植物への愛情を大切にされる丸山氏の生き方や価値観を表しているのだと思います。

（正会員）

庭に向かう私の姿勢

第4回『庭へのアプローチ』

やまだ ゆうじ
山田 祐司

2023(令和5)年8月27日(日)オンライン

本日は、私の庭づくり経験の中から、「好み」「ヒント」「構成」「自分」の4つの項目についてお話しします。

好み

お客様は自分の好みに合う庭をつくってくれる会社なり庭師を探して依頼してきます。依頼を受けると、

いろいろ打合せをしながら、庭の完成へと進んでいきますが、一つの会社あるいは庭師で全てのお客様の要望に対応できるとは限らないと思います。私が知る限りではどんな庭にも対応できるという会社あるいは庭師はいないのではないかと思っています。

少し前の話になりますが、友人が「山田はどんな庭もつくれるのか」と聞いてきたことがありました。その問いに対して、私は「どんな庭もつくることはできない。全ての要望に



山田祐司プロフィール
新潟県出身。屋号・みつば
ち造園(埼玉県白岡市)
を営む。

対応するのは難しい」と答えました。彼は納得しない様子でした。というのも彼は総合商社的な会社に勤めている人で、いろいろなことに対応する仕事をしていましたから庭もそういうものでないのかと言うのです。私も「そうではない」の一点張り、話は平行線をたどりました。

そこで私が話したのは「庭は総合商社にはなり得ない」ということでした。もちろん、庭をつくるにあたっての引き出しは、多ければ多いに越したことはないと思います。だからといって何でもできるとは限りません。例えば和風の庭、洋風の庭、茶庭、大規模庭園、小庭、老人ホームの庭、施設の庭、子供の庭などどんな庭でも対応するというのは、なかなか難しいと思います。作庭者側も得意不得意があるだろうとは常日頃思っています。全てを網羅して通り一遍の庭が良いとも思えないのです。そのことをきっかけに、「良い庭をつくるには」とか「好み」について深く考えるようになりました。

私は庭を考えると、私自身が好きな音楽に重ね合わせるがよくあります。自分の好きなジャンルの音楽はよく聞きますが、あまり聞かないジャンルの曲でも、この曲は良いとか、すごくきれいな曲だとか、格好いいと思うことがあります。

何が言いたいかというと、自分の「好み」ではなくても「良いものは良い」ということです。音楽を聞いていて思うことは、良いものには人を引き付ける魅力があるということです。私も好みを問わず、「良いね」と言われるような庭をつくりたいと思うようになりました。

庭というのは総合商社的なものになり得ません。敷地の条件が違い、お客様の好みも違うわけですから、やはり個別的になって当然だと思います。あちこちに同じような庭をつくるというのは、数をこなすには合理的なのかもしれないですが、庭の魅力とか面白みの点で半減するのではないかと考えています。やはりつくり手側が各々の庭を確立して、お客様がその中から自分の好みにあった庭を選んでいくという形が良いのではないかと思います。

その後、その友人が私に庭の依頼をしてくれました。そんな話があった後ですから私も精一杯仕事をして

完成させ、非常に喜んでもらいました。改めて自分の「目指す庭」と「好み」について考えるきっかけになった出来事でした。以来、他とは違った独特な空気が感じられるものを目指したいと考えるようになりました。

ヒント

庭をつくるには、敷地の条件やお客様の要望、予算などを聞き取ることが大事です。条件や要望は一軒一軒で異なりますが、お客様の要望を聞く中に庭づくりのヒントといえますか、きっかけみたいなものがあると思います。

聞き取った情報を持ち帰って設計図面を書き始め、何か面白いものがないかとアイディアを練ります。アイディアのヒントは、常日頃から考えておかなければいけないことだと思っています。

先ほどお話しした音楽と庭はよく似たところがあると思います。例えば、一つの曲をとっても、その中にいくつかメロディーが入っています。いくつかのメロディーが重なり、一つの曲ができます。この曲は良いな、心地良いなとか、聴いていて心が安らぐなとかいろいろな感情が生まれてくるのだと思います。

庭もいろいろなパーツ、つまり植栽や石積、石貼り、ウッドフェンス、竹垣などいろいろな要素が組み合わせられて一つの庭を構成しています。それによって一つの空間をつくりあげて、心地良い空間、お客様が満足いく庭を提供できるかにかかっています。

話はかわりますが、私は仕事の移動中とか、休みの日に車で移動しているときに、外国車を見ることを楽しんでいきます。外国車に詳しいわけでもなく、外国車を所有しているわけでもなく、特に外国車が欲しいということでもないのですが、いろいろなメーカーのそれぞれのデザインがとてもかっこ良く見えます。

各メーカーで最新モデルとか新型の車が出てきますが、モデルチェンジした車のデザインは、そのメーカー「らしさ」のようなものを持っています。それは各メーカーが自分の会社の車のデザインに誇りを持っていて、それをずっと大切に守ってきて、それを進化させていることによりデザインが洗練されているのだと思います。

このようなことも庭をつくるにあたって考えています。一つの庭をつくるとそれを踏まえて次々と庭つくりますが、それぞれに作庭者らし

さが表れてくると思います。同じ庭はつくりませんが、最初の庭よりも次の庭が、次の庭よりもまたさらに次の庭へとつくり続けることによって洗練されていき、良い庭になっていくのだと思います。

それは、自分の庭づくりの姿勢だったり、そこから生まれる新しい感覚や感情が次の庭に反映されていくからだと思っています。より良いものをつくりたいという気持ちがそうさせていくのだらうと思っています。

ヒントは、庭だけではなくいろいろなところから探せます。音楽の構成や曲づくり、車のデザイン、パーク、そういうことからヒントを探ることが庭づくりに役立つのではないかとよく考えています。そのヒントに気づく自分であるかどうかということが重要なのだらうと思っています。そのようなヒントを得て、お客様の要望や条件に応えながら庭づくりをしています。

構成

庭の構成はつくる場所、広さ、お客様の要望や作者の意図など条件によって形は異なります。私が庭の構成で重要と考えているのがフォーカルポイント（焦点）です。

フォーカルポイントをどこに置く

のかを決める前に、まず、その庭はどこから見るとかという視点場が重要になってきます。視点場が決まれば、そこからどれくらいの高さの場所にフォーカルポイントを置くのかが決まります。視点場からの位置がずれてしまうと残念な結果になってしまいます。フォーカルポイントはどこに持つてくるかは庭を構成する上で一番重要だと思います。

フォーカルポイントの位置が決まれば、次に周辺をポイントに向かわせる形状にしていきます。ここは難しいところで、あからさまにそのポイントに向かわせるような形状になるといやらしさが出るというか、しつこく見えてしまいます。全体をまとめながら、なるべく自然な形で視線をポイントに向かわせる構成が必要になっていきます。

そのために、あれもこれも詰め込みすぎるとせつかくつくったパークパーツがぶつかり合ってしまう、お互いが喧嘩して逆効果になってしまうということがあります。なるべくフォーカルポイントに向けるために、それを邪魔しない形で、全体をまとめていくことが大切だと思います。

庭の構成では、ランドライン、石積のラインといった「線」が表れてきます。その線はくっきりしたラ

イン、ぼかしたラインなどいろいろな場合がありますが、その線の終わりが隠れて見えなくなっているといった形を取ることが良いのだと思っています。それは、その線がその先までつながっているように見えることで空間をより広く見せられるからです。全てを見える範囲で収まらせないようにすることは構成のテクニクだと思います。

また、フォーカルポイントと合わせて考えたいことの一つに、光の使い方があります。庭は外部空間につくることが多いので、光は必ず全体を照らしています。そこで光をうまく利用するためにはいかに影をつくるかが重要になってきます。植栽や工作物の高低差をうまく使って影をつくり、見せたいところに光を集めて、全体をフォーカルポイントに向かわせる構成とともに光もフォーカルポイントに差し込むようにしていくことで、より庭に深みが出て、力のある庭になっていくと思います。ただし、光は太陽の動きで変わっていきます。時間や季節によって変わりますが、またそれも庭の楽しみ方の一つだと思います。庭木の手入れをしても、そのようなことも頭に置くと、普段の管理仕事でも庭をグレードアップさせている感覚で

手入れができると思っています。

次に色の話をします。色はフォーカルポイントや線と同じぐらい大切な要素です。植物の色や石材も庭の中に入れる素材の色を一つ一つ決めていくわけですが、私はあまり多くの色は使わずに全体をまとめることで落ち着きのある庭になると考えています。

例えば、はっきり模様を出すために色をくっきり変えてデザインを出すこともあるのですが、白御影石の場合、同じ白でも多少色違いの白を混ぜると奥が深い雰囲気を感じられるので、そういう色使いをすることがあります。色の違いを意識して上手に使うことが大切だと思っています。そうすることで、植栽、アプローチ、石積など全体の調和も生まれてくると思います。

調和ということで話を続けると、外部空間にある庭は、庭スペース一つで完結しているわけではなくて、外周と繋がっています。周囲の環境と調和していることも、落ち着きのある庭か、良い庭に見えるかの違いになってくると思います。庭をつくる場合に周囲の環境を見るのも重要と言われるのはそのためだと思います。その敷地にそぐわない突拍子もない庭をつくってもなかなかきれいに

に見えてこないということだと思います。

例えば、海岸沿岸部の家のお庭に無理やり山奥の景色を持つてこようとしても、そぐわないし、庭木もうまく育たないし、周囲の雰囲気に合わずちぐはぐに見えてしまうと考えます。かといって、その地域にぴったり合うものでしかいけないわけではなく、つくる場所に寄せた中で、調和した形をつくるのが周囲の環境と雰囲気が溶け込み、借景とは言わないまでも、それに似た効果があるのでないかと思っています。

庭の構成素材には植物、石、土、水、二次製品などいろいろありますが、中でも水は他の素材とは違った特別なものを感じさせてくれます。動きや音、質感などです。水が見せる景色にはキラキラ感や艶やかさがあり、それが特別感を出しているのだと思います。そのために庭に入れる水はきれいな水でなくてはならないと思います。

このツヤ感は、他素材にもあつて、水と組み合わせることで、庭全体の品が上がるように思います。水を打った庭がきれいだと感じるのも、やはりこのツヤ感がきれいに感じるからではないか思います。

ツヤ感のある素材として植物があ

げられます。ツヤつばい葉の植物は、それ自体に水を含んでいるため涼しげに感じます。石にもツヤのあるものがあります。こういう素材の持つツヤ感が庭全体の深みに繋がっているのではないかと思います。

植物について言うと、植物は生き物だということです。植栽を入れることによって庭は成長していきま

す。このことは庭を建物や構造物とは違う特別なものになっている一因だと思っています。このように生き物を使って形をつくる仕事、庭づくりとは特別な仕事なのだと感じています。

そのため、つくり手と持ち主であるお客様の想いが庭に現れてくるのだと思います。愛情を持って接しているお客様の庭はいつ行ってもきれいで、美しく見えますし、そこで仕事ができることを喜びに思います。

構成についていろいろと話しましたが、これを全部庭の中に詰め込むというわけではありません。つくる庭の環境によって、できることとできないこともあるので、庭をつくる要素としてこれらのことを考えているということです。その中からそこにあつた方法を選んで自分なりの表現をつくっていくことが庭をつくるうえで大切だと思っています。

自分

自分自身についてお話しします。さきほどの音楽や車の話のように、自分が美しい、きれいだと感じるものを探すことは、庭をつくる上でとても大切だと思っています。そういったものを見逃さないようにアンテナを張っていることをいつも心がけています。

景色や音楽、車などの中の何が自分に感動を与えているのか、自分なりの答えを探していくことが、庭をつくる際に「自分らしさ」の表現に生きてくると考えています。

これから庭をつくり続けるにあたって、これまでにつくってきた庭が次のヒントになります。次はこうしてみようとか、これを足してみたらどうだろうとか、これはまた逆にやめておこうとか、つくることによってしか得られない感覚を自分の中で積み重ねていく先に、「自分らしい」庭の形が見えてくると思います。

それでは、私が今までつくった庭を紹介します。

A邸 白岡市 変化と一体感のある庭（図1）

この庭はアプローチ、門、庭の中を全部取り除いて、さらの状態に戻して、新たにつくり変えました。

この門の引き戸は形を変え、アプローチの御影石も敷き直しています。建物は和風ですので、ウッドフェンスも縦を強調してデザインし、建物に合わせた雰囲気をつくっています。

玄関に向かう動線は斜めなのでアプローチを斜めにして変化を持たせています。それに合わせた石積をし



図1 A邸(白岡市) 変化と一体感のある庭 2011.3

ています。御影石の敷石のラインも石積のデザインに合わせて、少しカットして変化を持たせています。

アプローチの曲げた石積が庭の中に繋がっていることになりました。ウッドフェンスは、入口から高さを変えて、庭の奥まで続いている感じですが、石積を門から引く張ってゆき、庭の中まで高さや形も変えながら積んでいることで一体感を持たせています。そのことで、庭に広がりを感じられるデザインです。

N邸 灯のある中庭（図2）

小さな中庭（2×3メートル）に

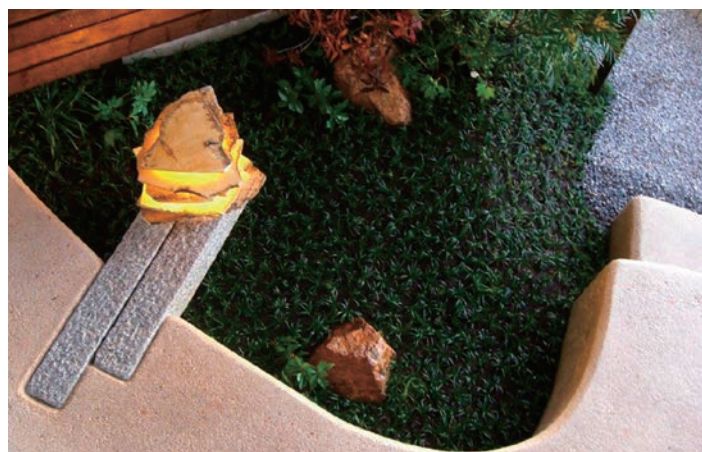


図2 N邸(鹿沼市) 灯りの中庭 2012.10

テラスをつくっています。2段のステップを設けて、外に出られる構造です。ステップの曲線をあえて直線で切つて、テラスが向こうまで伸びているように見せています。ステップは山砂の洗い出し仕上げで、直線がゆえに御影の棒石のラインを入れて、より広がりを持たせるようにしています。

ライトの部分はろうそくを手で持つて灯したような感じをイメージしてつくりました。このライト

は別な場所に置く形もできますが、御影の棒石に乗せていることでテラスとの関連性ができて、統一感が生まれると思います。夜、この光がこのテラスの線をさらに強調して、きれいに見えます。

Sa邸 水をきれいに見せる庭（図3）



図3 Sa邸(白岡市) 水をきれいに見せる庭 2014.5



図4 「車窓から」日本園芸フェスティバル出展作品 2009.5



図5 「涼と静寂の中へ」第12回 国際バラとガーデニング ショウ出展作品 2010.5

水がたまるように加工した御影の平石（900×600ミリメートル）を2段に据えて水が落ちる姿を見せれています。水の動きや光の反射、音に気を配り、小さいながらも水がきれいに見えるようにしました。

奥の石積のように小端で積んできて段違いに崩しながら、植栽スペースに変化を与えていくというのは私が好きでよくやるやり方です。石積を植栽に混ぜることで、庭が柔らかなると思います。

「車窓から」日本園芸フェスティバル出展作品（図4）

15年ぐらい前にさいたまスーパーアリーナで開催されたガーデンショーに出した作品です。

洗い出しの湾曲した石積と小さな流れをつくっています。山の中を車で通ったときに、見えるような景色をイメージしてつくりました。洗い出しの塀はその中を風が吹き抜けてきているイメージです。

洗い出し壁の曲線ラインと石積の天端の曲線ラインは関連性を持たせるようにデザインしました。それも独立した感じに見えるようラインを近づけてつくりました。

ガーデンショーでは全体のテーマはありますが、ここで何をつくるかは、出展者が全体のテーマや条件に寄せていくことから始まります。自分なりの何かを出していく作業になります。正直何でもありなのがガーデンショーだと思いますが、逆に言

うと何をつくるかを考える非常に良い訓練になると思いました。普段の庭づくりよりも自分の中でゼロからつくっていくという感覚を味わいました。

「涼と静寂の中へ」第12回 国際バラとガーデニングショウ出展作品（図5）

これは西武ドームで開催されたガーデニングショウの出展作品です。

非常に涼しげに見えますが、山の中で溪流釣りをイメージした抽象的な作品です。川に向かって釣り糸を投げると釣り糸がたわみながら向こうへ飛んでいく様子をイメージしてつくった作品です。

上部の曲線はアルミパイプです。



図6 K邸(羽生市) 流れを表現した石積 2013.4

アルミパイプの中に水を通して、一部を加工して水を落としています。水はこのアルミパイプと同じ曲線を描きながら落ちていきます。水が平面的に落ちるのではなく曲線で落ちるところを見せたいと思ってつくった作品です。

K邸 流れを表現した石積（図6）

私がつくった中では比較的広いスペースの庭です。この石積に線がずつとどこまでもつながって見えなく



図8 Su 邸(浦和市) 1階と2階両方から眺める庭 2021.5



図7 K 邸(羽生市) 創作立水栓 2013.4

なっています。

階段状になっている石積がどんどん変化して、徐々に直立し花壇に沿っていきます。この石積で難しかったのは、平たい面で、向こうまでいかないといけないのですが、あまり厚みのある石は使えないので、その場所場所で、石の厚みや天端面の広さを考えながら、全体の勾配とカーブライン等を守りながら、なおかつ石の表面に変化をつけながら、並べていきました。ここではお客様の要望で立水栓をつくりました(図7)。庭の中で目立つ場所でしたので、デザイン性を持たせてここ独自のものをつくりました。水栓の立上げ部分は、このために用意した御影石ですが、水受の縁石はお客様のところに元々あったものを加工してつけました。

Su 邸 1階と2階の方向から眺める庭(図8)

このお宅は、1階がご主人の寝室で、2階がリビングになっています。2階のベランダにもテーブルがあり、休めるようになっていきます。そこから眺めたり、1階のご主人の寝室から眺めたりと、2方向から眺められるようにつくった庭です。

図8は2階のベランダからの眺めです。石積に挟み込んだ御影の平石から水を落としています。変形した平石を使ったことで少し変化のある仕掛けになっています。

2階のベランダから、外が丸見えにならないように少し段を高くして、植栽地を上げています。隣地はお客様の会社事務所で、この庭の外側は会社の従業員用の駐車場です。日中は従業員さんが営業で出ていますので駐車場は空いているので、いかにも駐車場ですというようにはしたくないということで、デザイン性を持たせて緑を多く入れて庭に溶け込むような駐車場にしました。

(写真はすべて山田祐司氏撮影)

山田祐司さんの講座を受けて

米山 大地

2007年生まれ。神奈川県横浜市出身。現在



高校生。学校が休みの時は父の会社の現場の手伝い、講習会にも参加して勉強中。好きな庭・龍安寺の石庭

山田祐司さんの講座を通じて自分の中で大変勉強になりました。庭づくりは「フォーカルポイント」を意識することが重要だと教えていただき、庭は単なる美しい景色をつくるだけでなく、お客様の視線を引き付け、庭全体のバランスなどを良くする働きがあることを知りました。

また、庭をつくる際には周囲の環境や自然との調和も大切であることや、それを大切にし、その場所ならではの美しい庭をつくるのがポイントだと知ることができました。

さらに新しさだけが良いものとは限らないことを学びました。過去の形にとらわれず、常に新しい形や美を見つけ出す努力が重要であること、それらを見つげ出すことは簡単ではないですが、常に新たな形や美しさを追求することでより豊かな庭をつくれるのだと理解しました。

これらの考えを今後の庭の勉強に活かしていきたいと思っています。連続講座については、zoomの画面越しではわからないことなどがあるので、是非自分の目で実際に庭を見学したいと思っています。(会員子弟)



活動報告

昨年度まで世界中で蔓延していた新型コロナウイルス感染症もようやく終息に向かい、インバウンドも回復が感じられる中、国際活動委員会としてはいよいよ活動が活発化する1年でした。

4月には、The Australian Garden Council (AGC)と覚書を交わし、将来を担う造園家の育成のため交換留学を行っていくことを一つの目標として掲げました。今年度、2024（令和6）年からその準備を行い、今後互いに次世代の造園家育成に取り組むことを誓い合っています。今年度には日本から留学生を派遣し、より広い視野を持てる若手造園家を育てるとともに、オーストラリアから迎える学生が新たな経験を積めるように準備を行っています。

7月は、以前から行われているアメリカ・ポートランド日本庭園の「技と心」のセミナーの講師に当協会からは星宏海氏を派遣しました。

当セミナーは初級から中級向けへとステップアップし、より高度な日本庭園の技術の継承のための講座と

なりました。指導に当たっては造園家として一線で活躍する受講生に、より深い技術を伝え、日本庭園の奥の深さを伝えられるよう努力しました。お陰で現地でも高い評価をいただき、参加された受講生から喜びの声が多くあつたと報告を受けています。

10月には、2022（令和4）年に設立した欧州日本庭園協会から、ヨーロッパ各地でワークショップを行う依頼を受け、筆者がその事業に参加しました。

日本庭園の文化は世界中で多くの需要を生んでおり、後世に伝える必要性を感じる1年でした。これもひとえに前国際活動委員長三橋一夫氏の当協会での活躍が花開き始めたものだと感じ、協会一丸となって応えたいと思います。

国際活動委員会 協力依頼アンケートの件

皆様ご周知だとは思いますが、今後の多くの海外からの要望に向け、昨年、活動協力に関するアンケート調査を実施しました。現在12件の協力の申し出があります。地域は埼

玉、東京、神奈川、福井、愛知、兵庫、愛媛の方々です。アンケート調査に協力いただきありがとうございます。

早速、海外からの依頼を共有し庭園の魅力を分かち合える輪を大きくできるよう共に努めてまいりたいと思います。

海外への講師の派遣に関しては継続的に依頼があります。

海外留学に関しては改めて募集を行います。是非、次世代造園家の育成に理解いただき、多くの応募を期待しています。

欧州日本庭園協会へ講師派遣の報告

10月8日から22日まで欧州日本庭園協会から依頼を受け、筆者が講師として派遣されました。欧州日本庭園協会は2022（令和4）年に創立した会で、今回の依頼は欧州日本庭園協会として日本との最初の交流となりました。

準備段階ではイギリス、ベルギー、フランスの庭園協会の方々と日程調整を進めました。しかし、今回は予算の確保も含めて次年度以降に調整をする方向で決定し、フランスを中

心とした講習会となりました。

訪れた会場は合計7箇所です。パリ近郊の日本庭園が3箇所（アルベール・カーン美術館内の日本庭園、イシール・レ・ムリノー市の市川庭園、ブローニュ・エドモン・ド・ロートシルト公園内の日本庭園）。その後スイスに移動し2箇所の個人邸とフランス日本庭園協会会長の自宅兼会社の本庭。最後は2022年に欧州日本庭園協会創立総会が開かれた際に訪れたモレヴリエ市モレヴリエ東洋公園でした。

講師は前回も同行した全国1級造園施工管理技士の会（一造会）の石井匡志氏と2人で務めました。

●アルベール・カーン美術館

こちらの美術館は、カーン銀行を創立したアルベール・カーンによってつくられた住居を現在はブローニュ・ビヤンクール市が管理し、美術館として一般公開を行っている施設です。4ヘクタールの園内にはフランス庭園やイタリア庭園、日本庭園も作庭されており、近年では1989（平成元）年に高野文彰氏が庭園を改修、2022年には本館を限研

吾氏が改修したことでも注目されています。前回行った講習会と同様に現地の専属スタッフ10名ほどと共に庭園全体の管理計画を確認し、園内樹木を使い剪定講習会を1日かけて行いました。(図1)

●イシー・レ・ムリノー市の市川庭園

イシー・レ・ムリノー市と千葉県市川市の姉妹都市としての友好関係から2016(平成28)年に作庭された公共公園で、流れや枯山水庭園、東屋等をデザインに含んだ地域の憩いの場のような庭園です。こ



図1 アルペール・カーン美術館 剪定講習風景

らでは市の公園管理をしている方々8名ほどと庭園の管理計画を確認したうえで、園内において剪定講習会を1日かけて行いました。(図2)

●ブローニュのエドモン・ド・ロートシルト公園内の日本庭園

1855(安政2)年から1861(文久元)年にかけてジェームズ・ド・ロートシルトによって建てられたブリヨ城の敷地の一部に当たり、現在はそのうち15ヘクタールが残され公園として開放されている場所です。その一部に1900(明治33)年のパリ万国博覧会の影響を受け、畑和助(註1)によって1ヘクタールの



図2 市川庭園 剪定後の風景

日本庭園を1925(大正14)年に整備したものです。管理状態としては十分ではありませんでしたが、石組等の保存状態は良さそうで、これから市として復元計画が検討されています。市の公園管理職員8名ほどと実生樹木を選別し、一部修復に向けての足掛かりを1日かけて提案しました。(図3・4)

●スイスの個人庭園

スイスでは個人邸の日本庭園2箇所を1日ずつ2日間かけて回り、専属庭師とともに庭園管理を行いました



図3 ブローニュのエドモン・ド・ロートシルト公園内の日本庭園 作業前

た。こちらはプライベート庭園であり作業の詳細な報告は控えさせていただきます。

●フランス日本庭園協会会長の自宅兼会社の庭

当初デイジョン市スゾン公園の日本庭園での剪定講習・竹垣講習が予定されていましたが、急遽変更となりました。今回の研修会全体をまとめたいたフランス日本庭園協会会長ジョセフ・グリマルディ氏の自宅であり、氏が経営する会社の庭で会長の従業員5人と近隣の造園会社の従



図4 ブローニュのエドモン・ド・ロートシルト公園内の日本庭園 作業後



図5 フランス日本庭園協会会長の自宅兼会社の庭園風景

業員3人に対して剪定講習会を実施し、さらに庭の改修を2日間かけて行いました。(図5)

●モレヴリエ市モレヴリエ東洋公園

こちらは欧州日本庭園会長のジャン・ピエール氏が管理している庭園で、昨年に続き訪問しました。全体の管理方針の確認と前回改修工事を行った庭園の一部への今後の植栽計画について意見を交わしました。その後、剪定講習と竹垣講習を3日間かけて行いました。(図6、7)



図6 モレヴリエ市モレヴリエ東洋公園 竹垣講習風景

●今後の欧州日本庭園協会との方向性

今回依頼を受けて講師派遣を行いました。今後は、未だ両協会間では協定を結べていません。2024(令和6)年秋ごろに会長の訪日が計画されており、その機会を生かし覚書を交わしたいと考えています。

現在、工事の依頼は受けていませんが、継続的な講師の派遣を希望されていると聞いています。今回は講師2人でしたが、今後は3人体制としメンバーを入れ替えながらの継続派遣が望ましいと考えています。



図7 モレヴリエ市モレヴリエ東洋公園 園内視察風景

かし、予算の問題から検討が必要とされています。

予算に応じて講師を1人しか呼べない場合も出てくる中、当協会として調整できるのか、1人体制で対応可能なのかという課題もあります。今回の講師派遣では主にフランス国内の会場で16日間と長期に及びましたが、ほかの国も訪問するとさらなる期間の延長も考えられる状況です。会員の皆様に参加してもらいやすい体制づくりを今後も検討してまいります。

(図2、3、4は曾根将郎氏撮影)

(国際活動委員長)

註1.. 1889(明治22)年に開催されたパリ万国博覧会に明治政府が出展した日本庭園をつくった庭師。博覧会終了後もパリに残り、ロベール・ド・モンテスキュー伯爵家の住み込み庭師となった。その後も貴族の邸宅に日本庭園をつくり、一度も帰国することなくパリで生涯を閉じた。

北米日本庭園協会 2024年
国際会議 参加報告 細野達哉



2024(令和6)

年3月5日から9日にかけて、米国テキ

サス州フォートワース市のフォートワース植物園(註2)にて、北米日本庭園協会(NAJGA)主催の国際会議が行われた。

この国際会議はNAJGAが隔年を目処に開催しており、主に北米にある公共の日本庭園の関係者や、一般の日本庭園ファンに向けた情報交換やネットワークづくり、また技術習得や研究発表の場として、毎回多くの参加者を集めている。「STAY ON THE PATH」と題された今回の会議は、北米や日本だけでなくヨーロッパやオーストラリアからも参加者が集まり、総勢200名規模の催しになった(図8)。フォートワース植物園のホールを会場にした3日間の会議では、およそ35件を超えるレクチャーやセッション(口頭発表)



図8 現地和太鼓グループによる演奏 2024.3.8

が行われた(図9)。主な発表内容としては、各国の日本庭園の状況や取り組みに関する報告、日本庭園の歴史や技術に関する研究発表、異文化間理解についての考察など、国際的な日本庭園の在り方についての思考を深めるものが揃い、日本国内では触れることのない視点で日本庭園を顧みる機会を得た。また会議の前後日程で行われたワークショップでは、茶道の実践や日本人講師による石積の実地講習、マツの仕立て方や移植(根巻き)の実地講習などが行われ、日本庭園について総合的な理解を深める大変充実したプログラムとなっていた。

また、今回の会議では昨年に設立された欧州日本庭園協会(EuroJGA)とNAJGAとの交流協定の調印式が行われた(図10)。日本庭園協会は2014(平成26)年にNAJGAと同様の協定を結んでおり、今年が10年目の年となる。会議中に行われたInternational Partnershipsと題したセッションでは、曽根国際活動委員長によるビデオ発表にて当協会の目的や特質、近年の活動などについて紹介し、北米、ヨーロッパ、日本それぞれの協会の取り組みについて情報共有を行った。



図9 会場ホールでの口頭発表の様子 2024.3.7

私は、自身が経験したヨーロッパでの複数の作庭プロジェクトについて、それぞれの作品概要と海外日本庭園の意義に関する考察をまとめて発表を行った(図11)。他に当協会会員としては鈴木誠氏、山田拓広氏、栗野隆氏が会議に参加し、それぞれ発表を行った。栗野隆氏は、当協会も協力している「日本庭園のこころとわざに関する研究」について、日本庭園に関する技術の体系化の進捗を示しながら、その意義と研究の展望について発表した。



図10 EuroJGAとNAJGAの調印式の様子 2024.3.8

次回のNAJGA国際会議は、来年の2025(令和7)年の10月にミズーリ州セントルイス市で開催される予定である。

(国際活動委員会 事務局長)

(図6-12 特記以外は細野達哉氏撮影)

庭園(図12)など様々なテーマガーデンが設けられている。日本庭園は1973(昭和48)年、姉妹都市である新潟県長岡市から植物や資材の提供を受けて造園された。その後も資材や設計などが寄贈され、枯山水、月見展望台、仏塔、滝、ニシキゴイの池などで構成された回遊式庭園となっている。春と秋に日本祭りが開催され、日本の芸術や文化が紹介されている。



図12 フォートワース植物園内にある日本庭園 2024.3.6



図11 International Partnershipsセッションでの発表の様子 2024.3.8 小山拓朗氏撮影

令和6年度 一般社団法人日本庭園協会 定期総会報告

令和6年3月15日 清澄庭園 大正記念館

一般社団法人日本庭園協会は、2024（令和6）年3月15日（金）午前10時30分より東京・江東区の清澄庭園・大正記念館において評議員会を開催した。同日午後1時より同場所において定期総会を開催した。

【評議員会】午前10時30分

司会＝清水哲也常務理事

出席状況は評議員54名中、出席35名、委任状19名、計54名であった。

内田均副会長の開会の辞。高橋康夫会長の挨拶の後、会長が議長席に着き、議事録作成者に加藤精一常務理事、議事録署名名人に高見紀雄評議員、三宅秀俊評議員を指名した。議事に入る前に議長から日本庭園協会定款第7章評議員及び全国評議員会について説明がなされた。引き続き議案についての説明があり、議論が交わされ（21～22ページ参照）、総会において一括審議を図ることです承された。

【総会】午後1時

司会＝廣瀬慶寛副会長

総会員516名中、出席54名、委任状213名。計267名で、定款第19条により成立。内田副会長の開

会の辞。高橋会長は挨拶に続き、議長席に着き、議事録作成者に加藤精一常務理事、議事録署名名人に上野周三理事、平井孝幸理事を指名し議事に入った。

○第一号議案「令和6年度現況報告等」

現況報告＝加藤精一常務理事

本部事業報告＝

加藤精一総務委員長／
清水哲也技術委員長／
内田均鑑賞研究委員長／
小沼康子広報委員長／
曾根将郎国際活動委員長／
支部事業報告＝清水技術委員長／
各支部長

1 現況（令和6年12月31日現在）

(1)事務所：〒169・0051

東京都新宿区西早稲田1・6・3

フェリオ西早稲田301号

電話：03（3204）0595

E-mail gsj20@m7.dion.ne.jp

URL <https://nitekkyou.org/>

(2)会員数（カッコ内は前年比）
正会員489名（4減）

特別会員／名誉会長・会員13名（1増）

維持会員11社（1増）
学生会員3名（1増）

総会員数516名（1減）

(2)本部委員会及び支部組織

①本部委員会（カッコ内は委員長）

総務委員会（加藤精一）／財務委員

会（加藤新一郎）／技術委員会（清

水哲也）／鑑賞研究委員会（内田

均）／広報委員会（小沼康子）／国

際活動委員会（曾根将郎）

②特別委員会（カッコ内は委員長）

文化財指定庭園調査委員会（高橋康

夫）／日本庭園協会賞選考委員会

（高橋康夫）／日本庭園協会賞選考規

程検討委員会（高橋良仁）／日本庭

園協会設立百周年記念事業委員会

（高橋康夫）

③支部（カッコ内は支部長）

北海道南支部（桃井雅彦）／宮城県

支部（菊地正樹）／栃木県支部（清

水一樹）／茨城県支部（飛田幸男）

／埼玉県支部（山田祐司）／千葉県

支部（岩崎隆）／東京都支部（鈴木

康幸）／神奈川県支部（米山拓未）

／新潟県支部（小林紀昭）／石川県

支部（宮本広之）／静岡県支部（伊

久美和秀）／愛知県支部（高見紀雄）

／近畿支部（山田拓広）／岡山県支

部（三宅秀俊）／広島県支部（藤原忍）／鳥取県支部（石亀靖）／島根県支部（岡和生）／山口県支部（殿井正敏）／四国支部（仙波太郎）

2 事業の概要

【本部事業】

(1)総務事業（※以外はオンライン）

①（一社）日本庭園協会総会（3・

10）、臨時総会（10・26）②常務理事

会（1・10）（2・10）（2・21※）

（4・4）（5・11）（6・13）（7・

18）（8・21）（9・21※）（11・21

（12・19）③理事会（2・21※）（9・

21※）

(2)広報事業

①庭園協会ニュース（1111～111

4号）の発行②GSJミニニュース

（はがき）（81～83号）の発行③「清

澄庭園連続講演会」冊子・編集会議

（8・1）（12・15）

(3)鑑賞研究事業

①創立105周年記念事業・清澄庭

園講演会（7・9）／講演「井下清

らの技術者集団が作り上げた公共

の日本庭園としての清澄庭園の文化

的価値・技術的価値」高橋康夫氏／

「清澄庭園の現状と今後の課題」管

理者から見た清澄庭園」中山なつ希氏②東日本大震災復興記念庭園視察(9・16)③現地説明・横山英悦氏／煎茶点前・加藤精一氏／庭正パーク視察

(4)技術事業

①創立105周年記念事業・伝統庭園技塾「静岡県掛川市指定文化財松ヶ岡(旧山崎家住宅)」庭園修復基礎研修(9・2)④第14回庭園技術連続基礎講座「庭に向かう私の姿勢」(オンライン開催)／高見紀雄氏(5・28)／伊久美和秀氏(6・25)／丸山道隆氏(7・30)／山田祐司氏(8・27)／小泉隆一氏(9・24)③みんなの緑学／「長尾欽弥とよね美術品と庭園」秘められた長尾家の遺産」加藤映氏(4・27)／「浅草寺・伝法院庭園における修復工事について」藤元裕二氏(6・6)／「田中泰阿弥の庭園観」三鍋光夫氏(10・5)／「庭園協会が誕生していなければ、東京農業大学造園科学科は存在していなかった」上原敬二、龍居松之助、井下清の造園への思いと情熱」栗野隆氏(10・14)

(5)国際活動事業

①オーストラリア庭園評議会(AGC)と覚書を交わす(4・25)②ポートランド日本庭園60周年記念祝賀会に出席(5・26)③米国・ポート

ランド日本庭園の「技と心セミナー」に講師(星宏海氏)派遣(7・9)④欧州日本庭園協会の依頼により講師(曾根将郎氏)派遣(10・9)③その他、2019年に国土交通省「海外庭園再生プロジェクト」で修復工事を行ったシカゴ市「大阪ガーデン」において2025年に向けて検討されている再整備の準備。

【支部事業】

◆北海道南支部

(1)会議の開催 ①支部総会(1・24)

◆宮城県支部

(1)会議の開催 ①支部運営協議会

(1・15)②支部総会(1・22)／臨時総会(7・16)②役員会(12・17)

(2)技術事業 ①東日本大震災復興記念庭園(以降、復興庭園)の維持管理／枯損木の伐採(3・19)／流れ

の清掃(3・25)／除草(4・9)

(7・29)③(9・10)④石積

打合せ、作業(4・15)(4・28)

30(5・1)⑥／縁石整備(5・

21)／草刈り(5・21)(8・5)

(8・16)⑦／土橋のコケ補修(5・

28)／低木(アセビ)植栽(5・29)

／トヨタ自動車東日本ボランティア

グループ復興庭園維持管理作業

(6・10)(7・1)(10・7)(11・

4)／庭園入口路肩の石積(7・2)

(7・23)／堤に土嚢積(8・16)／シラカシ高垣の透かし(8・17)／

石段脇のモミの枝打ち剪定(8・27)

／園路の敷砂利の打合せ(9・2)

／園路路盤整備と敷砂利(9・3)

／宮床老人クラブ・宮城県更生保護

女性連盟復興庭園維持管理作業

(10・30)／池の水草取り(11・11)

(3)その他の事業 ①復興庭園来園者

案内(5・21)(5・29)／見学会

記念式典打合せ(8・20)／見学会

準備(9・15)／本部・支部共催見

学会、東日本大震災復興記念庭園開

園5周年記念式典(9・16)⑦／

復興庭園紅葉狩り(11・5)

◆栃木県支部

コロナ禍で体制が整わず活動休止

◆茨城県支部

(1)技術事業 講習会・崩れ石積技能

講習会(茨城県造園技能士会協賛)

講師・古平貞夫氏(10・7)⑧

◆埼玉県支部

(1)会議の開催 ①支部総会(2・5)

②役員会(1・27)(3・23)(5・

19)(10・11)(12・22)

(2)技術事業 ①研修会、見学会準備

(2・3)(4・9)(4・19)(6・

9)(6・19)②見学会／厚澤秋成氏

庭園見学会(4・22)③研修会／穂

垣研修会(6・23)④作品発表

会(12・3)

(3)その他の事業 冊子『Vintage』発行(11月)

◆千葉県支部

(1)会議の開催 ①支部総会(7・20)

②臨時役員会(必要に応じ)

(2)技術事業 ①勉強会「樹木の形の

不思議」講師・内田均副会長

◆東京都支部

(1)会議の開催 ①支部総会(5・20)

②役員会(4・28)(6・4)(9・

6)(10・18)(12・22)

(2)技術事業 ①見学会(日比谷公

園、旧本田家住宅、個人邸庭園二庭

(7・16)②登山(9・24)(10・7)

(10・29)(11・19)(12・10)

◆神奈川県支部

(1)会議の開催 ①支部総会(2月・

感染対策のため中止)②役員会(臨

時7月)(11月)

(2)技術事業 ①講習会「三和土、流

れの底打ち講習会」講師・越智将人

氏(9月)

◆新潟県支部

(1)会議の開催 ①支部総会(2・23)

②役員会(1・27)(3・14)(4・

4)(5・25)(9・9)③納涼会

(9・9)忘年会(12・9)

(2)技術事業 ①研修会準備(3・23

②研修会「越智将人氏による

庭園技塾」(6・15)④貞観園低

木剪定(6・29)⑤／貞観園低木

剪定・庭園整備工事（10・24）／県内研修会（中野邸）（12・9）

(3)その他の事業 「田中泰阿弥の萬控帖」（1・2巻発行）（9月）

◆石川県支部

(1)技術事業 ①講習会「北山杉の枝打ち取り木の手入れ維持管理講習会

（5・21）②研修旅行「山梨県視察・

（株）田中造園作庭見学他」（10・17～18）

◆静岡県支部

(1)技術事業 ①研修会・本部・支部共催「伝統庭園技塾 掛川市指定文化財 松ヶ岡（旧山崎家住宅）」庭園

修復基礎研修（9・2～4）②「天空の坪庭展」（4月）

◆愛知県支部

(1)会議の開催 ①支部総会（2月）(2)技術事業 ①見学会「四国・愛知県支部交流見学会・愛媛県内庭園」

（9・2～3）②「てっぺんの坪庭展」おにわさんと庭師によるトーク

ショウ」（9・27～28）

◆近畿支部

(1)会議の開催 全国支部長連絡協議会（オンライン）主催（1・28）

(2)技術事業 全国支部長連絡協議会京都見学会（本部共催）（5・13～14）

◆岡山県支部

コロナ禍で体制が整わず活動休止

◆広島県支部

コロナ禍で体制が整わず活動休止

◆鳥取県支部

(1)会議の開催 支部総会（1・28）(2)技術事業 見学会「巽武之助氏が

残してくれた庭園を中心に鳥取県中部地区の文化財的庭園の見学会」

（9・3）

◆島根県支部

(1)会議の開催 ①支部総会（1・28）②新年懇親会（1・28）

(2)技術事業 ①巨石ツアー「巨石ハ

ンター須田軍司さんと行く出雲」（2・4）②研修会「安来別邸母里

（もり）においてお茶会」（3・15）16）③ツアーガイド（JTBよりの

依頼）「安松軒（旧奥野邸）のガイド

ツアー」（安松軒は平成29年講習会で

講師・安諸定男氏による作庭）（4・2）④ツアーガイドの準備・モニタ

リングツアー（1・27）／庭園整備

（1・16）／庭園の案内・ひしぎの実

演等々を実施

◆山口県支部

コロナ禍で体制が整わず活動休止

学・仙波太郎氏作品見学「臥龍山荘

国名勝指定記念シンポジウム」パ

ネラー・水本隆信氏（元香川県支部

長）②見学会「愛知県支部主催・愛

媛県庭園見学研修」臥龍山荘・越智

将人氏作品他（9・2～3）

○第二号議案「令和5年度収支決

算、会計監査報告の件」

収支決算 加藤新一郎財務委員長

会計監査 野村脩監事

収支決算報告および会計監査報告

（23ページ参照）が説明された。

○第三号議案「令和6年度事業計画

の件」

組織方針 加藤（精）総務委員長

本部事業説明 加藤（精）総務委員長

は収束したと理解し、今まで自粛し

ていた対面による総会などを実施

し、ほぼ従前のような事業展開を

図ることが可能となった。

昨年は日本庭園協会創立105周

年の節目の年であり、東日本大震災

復興記念庭園鑑賞会、伝統庭園技塾

掛川市文化財「旧山崎家住宅」庭園

修復基礎研修及び清澄庭園講演会

などの記念事業を実施した。また、庭

園協会ゆかりの清澄庭園大正記念館

で記念式典を挙行し、庭園協会を永

年支えていただいた会員の方々の表

彰を行った。

さらに、臨時総会を開催して、清

澄庭園及び日比谷公園の国指定名勝

事業展開を目指したい。

1. 新たな体制によるさらなる飛躍を目指す

激動する時代の変化に対応するべく、若手の登用を積極的に推進することで執行体制の若返りを図り、フレッシュな感性に基づく新しい事業提案など庭園協会のさらなる発展を目指す。

2. 清澄庭園及び日比谷公園の国名勝指定の推進

昨年度の臨時総会にて「清澄庭園及び日比谷公園を国指定名勝に推挙」を協会総意として意思決定した。これに基づき清澄庭園については、連続講演会の記録を冊子としてまとめ、関係者に配布するとともに署名活動を行い、その結果を踏まえて関係部署（清澄庭園、江東区、東京都、文化庁）に決議表明を届けることとする。

また、日比谷公園については、近代的洋風公園第1号であり、開園からすでに120年を経過した日本を代表する公園としての評価はゆるぎないものがあるが、清澄庭園に倣って連続講演会を実施し、名勝としての価値を再評価して文化財公園としての評価を社会に問うプロジェクトを実施する。

3. 様々な事業展開

社会的課題である地球温暖化、生物多様性保全、SDGsを踏まえて庭園協会事業の「見える化」を図りながら積極的に各事業を展開する。

○庭園技術の向上及び伝統庭園技術の保存を図る。

○庭園ニュース、ホームページ、協会パンフレットの更新など庭園協会の事業をわかりやすく速やかに最新情報を伝える。

○庭園の魅力を市民に伝える鑑賞会を各支部と連携しながら実施する。

○昨年、協定覚書交換をしたオーストラリア庭園評議会（AGC）と緊密に連携を取りながら技術者交流を図る。また引き続きポートランド日本庭園、ヨーロッパ庭園協会などと連携し、庭園技術を世界に伝える。

○上記の事業を展開することで多くの市民に庭園の魅力を伝えるとともに新たに会員になっていただく。

4. 地域に根差した独自の支部活動を展開する

支部設立の目的は、当協会の事業展開を全国的な広がりにするために、それぞれの地域が独自の活動を行うことによって、庭園文化をさらに発展させるというものである。そこで、全国支部長連絡協議会を支部と本部の交流の場と位置づけ、より緊密な事業展開を進める。

なお、各支部はそれぞれ独自の活動を行い、個性豊かな事業展開を図り、本部と一体となって地域に根差した活動を展開することとする。また、庭園協会が全国展開を図るためにも引き続き九州支部の設立を目指すとともに各支部の実情を踏まえて支部本部の交流を図る。

【本部事業】

(1) 総務事業

① 定期総会、評議員会、理事会等の各種会議の開催運営② 創立110周年に向けて記念事業を計画③ 協会の事業、活動をホームページ・SNS等を活用し、内外に発信④ ホームページ・SNSの運営・管理

(2) 広報事業

① 庭園協会ニュースの発行（年間4回発行）（115～118号）② GSJミニニュースの発行（全会員へのがき通信）は事業計画に従い随時発行予定③ 清澄庭園連続講演会録「清澄庭園の魅力をさぐる」近代庭園の原点」発刊（3月15日発刊）／発刊案内チラシ作成④ （一社）日本庭園協会の案内パンフレットの作成

(3) 鑑賞研究事業

① 春季…本部・埼玉県支部共催見学会（4・20～21）② 秋季…本部・栃木県支部共催見学会（日程調整中）

(4) 技術事業

① 伝統庭園技塾「静岡県掛川市 松ヶ岡（旧山崎家住宅）庭園」（掛川市と内容計画中）② 庭園技術連続基礎講座5月より毎月最終日曜日3回開催・講師・植木協会新樹種部会会員・テーマ（現在調整中）・東京農業大学構内予定③ みんなの緑学 第1回「後世に伝えたい造園の匠の技と知見」講師・野村脩氏（6・15予定）／第2回「実践・植栽技術論」講師・内田均氏（9・14予定）

(5) 国際活動事業

① 北米日本庭園協会（NAJGA）と連携し、日本庭園の海外普及啓発に努める② ポートランド日本庭園と連携し、技術等協力を行う③ 欧州日本庭園ネットワークとの連携に向けて、協定の成立を行う④ オーストラリアガーデン評議会（AGC）と連携し、技術者の交流を行う⑤ 大阪市建設局と連携を図り、米国シカゴ市のジャクソンパーク内のフェニックスガーデン修復事業に向けて協力

【支部事業】

◆北海道南支部

(1) 会議の開催 支部総会（1・24）※総会にて支部解散決議／支部残資産（現金）は能登半島地震の義援金に寄付

◆宮城県支部

- (1)会議の開催 ①支部総会(1・27)
(2)技術事業 ①復興庭園維持管理／池の排水路補修工事、東隣地支障木の伐採作業(3月上旬)／記念庭園春の落ち葉清掃(4月上旬)／トヨタ自動車東日本ボランティアグループ維持管理作業(6・11月)／夏季除草(7・8月) ②講習会「野面石積指導者講習会」(覚照寺境内排水路護岸修景)(5・2・4)(10・3・5) ③見学会「春の庭園見学会」(5・25・26)／「秋の庭園見学会」(紅葉狩り) 11・9・10

◆栃木県支部

- (1)技術事業 ①見学会 本部共催古峯神社・宇都宮周辺見学会(日程未定)

◆茨城県支部

- (1)会議の開催 ①支部総会(郵送)(2月) ②反省会・忘年会(12月) ③受賞祝い・大平晶氏(黄綬褒章)猪瀬清次氏(旭日双光章)(3・8)
(2)技術事業 ①見学会 東京上野周辺の庭園(朝倉彫塑館他3箇所)
(3・2)(6月)(10月) ②技能講習会(11月)

*本部鑑賞会や他支部の事業にも積極的に参加する

◆埼玉県支部

- (1)会議の開催 支部総会(1・28)

- (2)技術事業 ①研修会「第1回・水鉢作製(令和5年度より延期)(3・2・3)／第2回・水鉢作製」(9月) ②全国支部長連絡協議会見学会(本部共催)(4・20・21) ③研修旅行(10月) ④作品発表会(12月) ⑤その他 テクノホルティ園芸専門学校での授業協力(日程調整中)

◆千葉県支部

- (1)会議の開催 新年会(1・20)
(2)技術事業 ①勉強会「病気と薬剤」講師・柴田忠裕氏(千葉県園芸協会種苗センター長) ②見学会「千葉県園芸協会種苗センター及び近隣」(日程未定)

◆東京都支部

- (1)会議の開催 ①支部総会(5・26)
②役員会(2・3)
(2)技術事業 ①松の手入れ研修(5月) ②登山(1・14)(3・9月)

◆神奈川県支部

- (1)会議の開催 ①支部総会(3月)
②役員会(11月)
(2)技術事業 ①講習会「腰掛待合講習会」講師・金綱重治氏(4月) ②見学会(9月)

◆新潟県支部

- (1)会議の開催 支部総会(2・29)
(2)技術事業 ①新潟県支部主催伝統技塾②県外研修会 軽井沢・長野方面(中央工学校茶庭等)／小田原方

面(江ノ浦測候所等)(未定) ③県内研修会(未定)

◆石川県支部

- (1)技術事業 ①研修会「北山杉枝打ち(京都・藤田林業)(4・14) ②講習会「鉄平石張り・石材道具の使い方」(9・10月)

◆静岡県支部

- (1)技術事業 ①研修会 本部・支部共催「伝統庭園技塾 掛川市指定文化財 松ヶ岡(旧山崎家住宅)」庭園修復基礎研修(日程未定) ②天空の坪庭展(4・5・7) ③茶室・茶庭づくり講習会(開催日未定)

◆愛知県支部

- (1)会議の開催 支部総会(オンライン)(1・26)
(2)技術事業 ①見学会 四国・愛知県支部交流見学会「愛知県内庭園」(3・9・10) ②庭展企画・鶴舞公園(名古屋市)(開催日未定) ③ガーデニングイベント企画 フローラルガーデンよさみ(刈谷市)／プレイイベント

◆近畿支部

- 講演会(開催日未定)
支部会員拡大に向け活動・見学会の開催

◆岡山県支部

- (1)技術事業 見学会「旧福武書店迎賓館・庭園」(開催日未定)

◆広島県支部

- (1)会議の開催 支部総会(春以降)
(2)技術事業 見学会「国登録記念物清水氏庭園(笠岡市)・岡山県県北地方」(開催日未定)

◆鳥取県支部

- (1)技術事業 ①里山再生プロジェクトの講演とワークショップ開催②重森三玲の庭再生プロジェクトを岡山の武村和彦氏と協働し、重森三玲の庭を巡るツアーを企画

◆島根県支部

- (1)技術事業 ①研修会「第1回赤松・黒松研修会(9月予定)／ツバキの実から椿油を作る(開催日未定)／お茶会講習(3月予定)

◆山口県支部

- 新体制発足後庭園見学会等計画予定
◆四国支部

- (1)会議の開催 ①支部総会(5・6月) ②役員会(3・4月)
(2)技術事業 ①見学研修会「愛知県・名古屋城二之丸庭園(修復現場)及び個人住宅庭園(3・9・10)

※総会以降、役員会・視察研修・技術講習会・開催(検討中)

説明後、鑑賞研究委員会に関する意見があった。(内容と回答は22ページ参照)

◆第四号議案「令和6年度収支予算の件」

予算説明Ⅱ加藤新一郎財務委員長
令和6年度収支予算(24ページ参照)
が説明された。

○第五号議案「役員改選の件」

趣旨説明Ⅱ高橋康夫会長

今回の役員改選は、高橋康夫会長、加藤新一郎氏、高橋良仁氏、野村脩氏の退任と若手および女性登用、支部長交代に伴って行うものである。

新役員には常務理事に曾根将郎氏、北村均氏、理事に栗野隆氏、鈴木康幸氏、竹内智子氏、由比誠一郎氏、監事に吉田正夫氏が選任された。支部長交代により新評議員に鬼村博巳氏と仙波太郎氏、新たに酒井和佳子氏、野村ゆみ氏、坂東美木氏、細野達哉氏、三澤美佳氏が選任された。その他の役員は再任された。

○第六号議案「総会議決事項の委任の件」

趣旨説明Ⅱ高橋会長

総会において議決すべき事項として、①令和6年度事業計画に関する件、②令和6年度収支予算の補正及び特別会計に関する件を常務理事会に委任するものとする。

○第七号議案「その他の件」

趣旨説明Ⅱ高橋会長

清澄庭園・日比谷公園の国指定名勝への推挙を推進することが説明された。

以上、全ての議案は審議の結果、拍手によって承認された。

令和6年度(一社)日本庭園協会総会では内田副会長の閉会の辞により、無事終了した。

その後、新名誉会員に推挙された河西力氏、加藤新一郎氏、野村脩氏、高橋良仁氏、本川勇氏に推挙状が贈呈された。出席された河西氏、加藤氏、野村氏から挨拶があった。総会終了後、懇親会が開かれ親交を深めた。

評議員会および総会における出席者からの質問、意見とその回答は以下のとおりである。

【評議員会】での質疑応答(発言順)

質問…105年の歴史がある日本庭園協会が昨年度初めて商標登録申請した理由はなにか。

回答(高橋康夫会長・以下同じ)…第三者より「日本庭園協会」の名称で商標登録申請が提出されていることがわかり、意義申立てをしたところ、それが認められ、改めて申請しているところである。英語名「The Garden Society of Japan」は登録済み。

意見…評議員会の発言を重視するならば、評議員の議論の結果を総会で生かすため半年ほど前の開催を検討してほしい。

質問…評議員の定員数と定年は決まっているか。

回答…全国の会員の意見を集めるためには50名前後が適当と考えている。定年は特に定めず、ご自身の申出によっている。

質問…定款第38条の「会員の活動の実情を集約し、理事会の業務に資するよう報告し」によれば、支部会員でなければ資格がないと思う。

回答…正会員がすべて支部に属しているわけではない。評議員は本部の会員であればその資格がある。支部長が全員評議員なので、支部の状況や情報は支部長から入ることになる。質問…コロナ禍の間は個人的に鑑賞研究委員会の元委員やその友達と庭園の見学をしていたが、そのような活動の報告も第38条の「会員の活動の実情を集約し…」に該当するか。

回答…該当する。会員同士の活動などは伝えていただいてもいいと思う。意見…女性の評議員や会員の方々と交流ができれば、協会の活動は活発になっていくと思う。

意見…最近、巨大な庭専門のサイトを目にする。インスタグラムの活用

は鑑賞研究委員会の活動を活発化させる一方法かと思う。

回答…日本庭園協会もInstagramやX(旧ツイッター)で発信している。まず、これはという情報をあげて、当協会のインスタグラムの活発化を図った方が良くと思う。その上で会員に何を提供できるかを考えていきたい。

質問…特別委員会の文化財指定庭園調査委員会として、「清澄庭園を名勝指定に」の活動報告がなされてもよいではないか。

回答…当委員会は文化財庭園の修復に直接関わる業務を想定しており、現在、該当事業がないため報告はない。強いて言えば、技術委員会の伝統庭園技術で対応している掛川市の松ヶ岡(旧山崎家住宅)庭園修復基礎研修がそれに該当すると思う。

意見…地方から総会に出席する会員にとつては、2、3ヶ月前に案内を出してほしい。

回答…総会の開催は原則、3月の2週または3週の金曜日としている。また、1月1日発行の庭園協会ニュースの案内を参照。

【総会】での質疑応答

意見…以前、故三橋一夫国際活動委員長からポートランド日本庭園の見

収支計算書				
2023年1月1日～2023年12月31日まで		(単位:円)		
科 目	予算額	本年度決算額	増 減	備 考
事業活動収入				
①入会金収入				
入会金収入	100,000	60,000	40,000	
②会費収入				
受取会費	6,500,000	6,301,300	198,700	
③事業収益				
講座収入	450,000	358,165	91,835	
鑑賞研究講演会	390,000	36,000	354,000	
鑑賞研究見学会	300,000	371,000	△ 71,000	
総会懇親会費	150,000	245,000	△ 95,000	
受託事業費	100,000	10,200	89,800	
105周年記念事業費	100,000	225,000	△ 125,000	祝賀会参加費
その他事業	100,000	0	100,000	
④雑収益				
受取利息	15	17	△ 2	
雑収益	0	100,000	△ 100,000	寄付
事業活動収入計	8,190,015	7,419,882	770,133	
1 事業費支出				
1-1 広報委員会費				
会報印刷費	1,200,000	1,105,489	94,511	
会報郵送料	500,000	320,135	179,865	
会報取材編集費	100,000	94,208	5,792	
SNS運用費	100,000	0	100,000	25ホームページ運営管理費に含む
パンフレット作成費	550,000	0	550,000	
1-2 鑑賞研究委員会費				
鑑賞研究講演会	270,000	70,530	199,470	遠遊講演会（高橋会長、中山なつ希氏）
鑑賞研究見学会	230,000	686,038	△ 456,038	復興庭園見学会
1-3 技術委員会費				
1-3-1 講座費				
講師謝礼	300,000	210,000	90,000	連続講座、籍学、ロングラン講座
講師旅費交通費	100,000	22,000	78,000	
事務・会場手伝い謝礼	120,000	60,140	59,860	
講座会場費	300,000	0	300,000	ロングラン講座会場費は前年度支払済みだったため
講座用事務・消耗品費	170,000	167,544	2,456	
1-3-2 地方講演会費				
講師謝礼	100,000	90,000	10,000	本部・支部長連続協議会共催京都見学会ガイド費用
講師旅費交通費	60,000	0	60,000	
1-3-3 伝統庭園技塾				
講師謝礼	200,000	182,040	17,960	掛川市松ヶ岡庭園修復研修
講師旅費交通費	100,000	147,320	△ 47,320	
1-3-4 文化財指定庭園調査会費				
文化財指定庭園保護協議会年会費	15,000	15,000	0	
文庭協定会負担金	60,000	56,000	4,000	
1-4 国際活動委員会費				
NAJGA 年会費	50,000	34,451	15,549	
国際交流費	100,000	0	100,000	
1-5 文化財指定庭園調査・修復費	200,000	0	200,000	
1-6 105周年記念事業費	800,000	974,025	△ 174,025	974,025の内訳
事務費				89,070
郵便・配送費				151,891
表彰・記念品関係費				438,484
式典懇親会費				294,580
1-7 その他事業費	100,000	226,700	△ 126,700	〔日本庭園協会〕The Garden Society of Japan〕商標登録関係
2 管理費支出				
2-1 定期総会費				
総会用事務費	100,000	318,288	△ 218,288	次年度会報代 77,700 イヤホンガイド 54,274 含む
庭園協会会費講演会費用	250,000	351,170	△ 101,170	
2-2 会議費				
事務費	10,000	17,145	△ 7,145	
会場費	150,000	206,784	△ 56,784	
役員交通費補助	28,000	45,000	△ 17,000	
2-3 事務局職員給料	1,000,000	960,000	40,000	
2-4 事務局職員交通費	240,000	240,000	0	
2-5 ホームページ運営管理費				
ウェブサイト管理費	250,000	275,000	△ 25,000	SNS 管理費月額 25,000 円が入ったため値上げ
サーバードメイン更新料	13,000	0	13,000	昨年度3年分支払ったため
2-6 渉外慶弔祝賀費				
渉外費	100,000	77,000	23,000	
慶弔費	50,000	0	50,000	
支部活動お祝い金	50,000	0	50,000	
2-8 通信費				
郵便・配送費	200,000	108,146	91,854	
電話料	140,000	128,798	11,202	
2-9 事務用品・消耗品費	300,000	418,462	△ 118,462	
2-10 宣伝広告費	80,000	88,000	△ 8,000	業界紙名刺広告
2-11 水道光熱費	70,000	50,895	19,105	
2-12 賃借料				
事務所家賃	1,100,000	942,852	157,148	
コピー機リース料	190,000	184,800	5,200	
2-13 銀行手数料等	100,000	57,597	42,403	
2-14 会計事務所顧問料	80,000	80,000	0	
2-15 諸雑費	14,000	14,000	0	火災保険料
経常費用計	10,240,000	9,052,355	1,187,645	
当期経常増減額（収入 - 支出）		△ 1,632,473		
一般正味財産期首残高（昨年度残高）		9,732,836		
次期繰越収支差額		8,100,363		

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金及び預金、未収会費、立替金及び未払金、前受会費、仮受金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2.に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金及び預金	9,732,836	8,037,363
貯蔵品(次年度総会用往復ハガキ)	0	63,000
合 計	9,732,836	8,100,363
未払金	163,566	0
源泉所得税預り金	0	0
震災復興庭園寄付預り金	0	0
仮受金	0	0
合 計	9,732,836	8,100,363
次期繰越収支差額	8,452,183	9,732,836

賃借対照表

2023年1月1日～2023年12月31日まで

(単位:円)

科 目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金	78,277	未払金	0
普通預金(みずほ)	1,176,648	流動負債合計	0
振替貯金	6,359,929	負債合計	0
通常貯金(ばるる)	422,509		
定期預金	0		
貯蔵品(ハガキ)	63,000		
流動資産合計	8,100,363		
資産合計	8,100,363		

財産目録

2023年1月1日～2023年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当期末残高
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
現金手許有高	78,277
普通預金 みずほ銀行 (メイン)	995,643
口座番号 1716382	
普通預金 みずほ銀行 (国際)	1,000
口座番号 1159951	
普通預金 みずほ銀行 (技術)	180,005
口座番号 1159943	
振替貯金 ゆうちょ銀行 (寄付金)	146,184
口座番号 00140-4-665089	
振替貯金 ゆうちょ銀行 (メイン)	6,213,745
00110-5-76081	
通常貯金 ゆうちょ銀行 (ばるる)	422,509
10040-50368701	
定期預金 みずほ銀行	0
貯蔵品(次年度総会用往復ハガキ)	63,000
資産合計	8,100,363
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	0
負債合計	0
III 正味財産(資産合計-負債合計)	8,100,363

監査報告書

下記監事3名は、一般社団法人日本庭園協会において、会長の提出した2023年度における会務の執行を総括した会費収入の「事業活動支出」の内訳並びに「収支決算書」「正味財産増減計算書」「貸借対照表及び財産目録」等につき監査した。

監査の結果、会務の執行は当該協会の定款に基づき誠実に
行なわれており、正確に処理されていることをものとめます。

2024(令和6)年 2月 20日

一般社団法人 日本庭園協会

監事 野村 脩/同 中村 寛/同 小泉 隆一

正味財産増減計画書

2023年1月1日～2023年12月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	本年度決算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
事業活動収入			
(1) 経常収益			
①入会金収入			
入会金収入	100,000	148,000	△ 48,000
②会費収入			
受取会費	6,500,000	5,926,500	573,500
③事業収益			
講座収入	450,000	358,165	91,835
鑑賞研究講演会	390,000	36,000	354,000
鑑賞研究見学会	300,000	371,000	△ 71,000
庭園協会賞講演会（総会）費	150,000	245,000	△ 95,000
受託事業費	100,000	10,200	89,800
105周年記念事業	100,000	225,000	△ 125,000
その他事業	100,000	0	100,000
④雑収益			
受取利息	15	17	△ 2
雑収益	0	100,000	△ 100,000
事業活動収入計	8,190,015	7,419,882	770,133
(2) 経常費用			
①事業費			
1-1 広報委員会費			
会報印刷費	1,200,000	1,105,489	94,511
会報郵送料	500,000	320,135	179,865
会報取材編集費	100,000	94,208	5,792
SNS 運用費	100,000	0	100,000
パンフレット作成費	550,000	0	550,000
1-2 鑑賞研究委員会			
鑑賞研究講演会	270,000	70,530	199,470
鑑賞研究見学会	230,000	686,038	△ 456,038
1-3 技術委員会費			
1-3-1 講座費			
講師謝礼	300,000	210,000	90,000
講師旅費交通費	100,000	22,000	78,000
事務・会場手伝い謝礼	120,000	60,140	59,860
講座会場費	300,000	0	300,000
講座用事務・消耗品費	170,000	194,342	△ 24,342
1-3-2 伝統庭園技塾			
講師謝礼	200,000	182,040	17,960
講師旅費交通費	100,000	147,320	△ 47,320
1-3-3 文化財指定庭園調査会費			
文化財指定庭園保護協議会年会費	15,000	15,000	0
文化財指定庭園保護協議会総会負担金	60,000	56,000	4,000
1-4 国際活動委員会費			
NAJGA 年会費	50,000	34,451	15,549
国際交流費	100,000	0	100,000
1-5 文化財庭園調査・修復費	200,000	0	200,000
1-6 105周年記念事業費	800,000	974,025	△ 174,025
1-7 その他事業費	100,000	226,700	△ 126,700
②管理費			
2-1 定期総会費			
総会用事務費	100,000	318,288	△ 218,288
庭園協会賞講演会費	250,000	351,170	△ 101,170
2-2 会議費			
事務費	10,000	17,145	△ 7,145
会場費	150,000	206,784	△ 56,784
役員交通費補助	28,000	45,000	△ 17,000
2-3 事務局職員給料	1,000,000	960,000	40,000
2-4 事務局職員交通費	240,000	240,000	0
2-5 ホームページ運営管理費			
ウェブサイト管理費	250,000	275,000	△ 25,000
サーバードメイン更新料	13,000	0	13,000
2-6 渉外慶弔祝賀費			
渉外費（関係団体賛助金）	100,000	77,000	23,000
慶弔費	50,000	0	50,000
支部活動お祝い	50,000	0	50,000
2-8 通信費			
郵便・配送費	200,000	108,146	91,854
電話料	140,000	128,798	11,202
2-9 事務用品・消耗品費	300,000	418,462	△ 118,462
2-10 宣伝広告費	80,000	88,000	△ 8,000
2-11 水道光熱費	70,000	50,895	19,105
2-12 賃借料			
事務所家賃（契約更新のため）	1,100,000	942,852	157,148
コピー機リース料	190,000	184,800	5,200
2-13 銀行手数料等	100,000	57,597	42,403
2-14 会計事務所顧問料	80,000	80,000	0
2-15 諸雑費（火災保険料）	14,000	14,000	0
事業活動支出予算計	10,240,000	9,052,355	1,187,645
当期経常増減額（収入 - 支出）		△ 1,632,473	
当期一般正味財産増減額		△ 1,632,473	
一般正味財産期首残高		9,732,836	
II 正味財産期末残高		8,100,363	

2024年度予算書

2024年1月1日～2024年12月31日まで

(単位:円)

科 目	2023 年度実績	本年度予算（案）	備考
I 一般正味財産増減の部			
事業活動収入			
(1) 経常収益			
①入会金収入			
入会金収入	148,000	100,000	
②会費収入			
受取会費	5,926,500	6,000,000	
③事業収益			
講座収入	358,165	350,000	
鑑賞研究講演会	36,000	50,000	
鑑賞研究見学会	371,000	140,000	
庭園協会賞講演会費	245,000	250,000	
受託事業費	10,200	220,000	
冊子販売	0	500,000	
④雑収益			
受取利息	17	15	
その他	100,000	0	
事業活動収入計	7,194,882	7,610,015	
(2) 経常費用			
①事業費			
1-1 広報委員会費			
会報印刷費	1,105,489	1,200,000	
会報郵送料	320,135	500,000	
会報取材編集費	94,208	200,000	
パンフレット作成費	0	550,000	
清澄庭園講演録冊子作成		2,000,000	
冊子郵送料		200,000	
1-2 鑑賞研究委員会費			
鑑賞研究講演会費	70,530	50,000	
鑑賞研究見学会	374,094	150,000	
1-3 技術委員会費			
1-3-1 講座費			連続講座、緑学ほか
講師謝礼	210,000	300,000	
講師旅費交通費	22,000	100,000	
事務・会場手伝い謝礼	60,140	120,000	
講座会場費	0	0	
講座用事務・消耗品費	194,342	170,000	
講座取材・配信事業費	0	150,000	新規事業
1-3-2 伝統庭園技塾			掛川市松ヶ岡研修
講師謝礼	182,040	200,000	
講師旅費交通費	22,000	100,000	
1-3-3 文化財指定庭園保護協議会費			
文化財指定庭園保護協議会年会費	15,000	15,000	
文庭協总会負担金	60,000	60,000	
1-4 国際活動委員会費			
NAJGA 年会費	34,451	50,000	
国際交流費	0	100,000	
1-5 受託事業費	0	200,000	
1-7 その他事業費	0	150,000	「日本庭園協会」商標登録ほか
②管理費			
2-1 定期総会費			
総会用事務・消耗品費	318,288	100,000	
総会会場・飲食費	351,170	250,000	
2-2 会議費			
事務費	17,145	20,000	
会場費	206,784	200,000	
役員交通費補助	45,000	100,000	
2-3 事務局職員給料	960,000	1,000,000	
2-4 事務局職員交通費	220,000	240,000	
2-5 ホームページ運営管理費			
ウェブサイト管理費	275,000	330,000	27,500 円× 12 か月
サーバードメイン更新料	0	13,000	
2-6 渉外慶弔祝賀費			
渉外費（関係団体賛助金）	77,000	100,000	
慶弔費	0	50,000	
支部活動お祝い金	90,000	50,000	
2-8 通信費			
郵便・配送費	108,146	200,000	
電話料	128,798	140,000	
2-9 事務用品・消耗品費	418,462	400,000	
2-10 宣伝広告費	88,000	80,000	
2-11 水道光熱費	50,895	70,000	
2-12 賃料			
事務所家賃	942,852	1,200,000	契約更新のため
コピー機リース料	184,800	190,000	
2-13 銀行手数料等	57,597	70,000	
2-14 会計事務所顧問料	80,000	80,000	
2-15 諸雑費	14,000	14,000	火災保険料
事業活動支出予算計	7,418,366	11,462,000	
事業活動収支差額		△ 3,851,985	
前年度繰越額		8,100,363	
差し引き次年度繰越予定額		4,248,378	

コラムの連載にあたって

2024（令和5）年4月27日に開催された「みんなの緑学 長尾欽也とよね・庭園と美術」秘められた長尾家の遺産」講師・加藤映氏の講演内容をコラムとして連載します。

講演は、昭和を代表する造園家岩城巨太郎を語るうえでキーマン（註1）となる人物の一人として挙げられる長尾欽也とその夫人よねが収集した美術品にまつわる内容です。

昭和初期、欽也とよねは、保健業「わかもと」で巨万の富を手にしでしたが、わずか25年足らずで没落した究極の成金として知られています。その短い繁栄の時期に骨董美術品の蒐集に傾注する一方で、工芸や美術などのものづくりの分野で若い才能を見出し、支援したことが語られることはありませんでした。若い才能を見出す力は、特によねの眼力によるところが大きかったと思われるます。収集した骨董美術品からはよねの審美眼の鋭さがわかります。

加藤映氏の講座では、加藤氏が収集した貴重な資料をもとにした解説により、欽也とよねの価値観や美意識の一端が垣間見られました。本コラムはその講座の内容を数回に分けてお届けします。

第一回・「刀剣」

加藤 映



長尾欽也とよねが蒐集した骨董美術品は刀剣類、仏像、染織美術品等多岐にわたり、多くの国宝級の美術品（註2）を所蔵しました。

第二次世界大戦後、長尾美術館を設立し、展示場所に充てられた鎌倉の扇湖山荘の1階収蔵庫で年に2回公開されましたが、長尾家の急速な衰退とともに昭和40年頃までにはほとんどの骨董美術品は散逸しました。

散逸した骨董美術品の全容はわかりませんが、各分野で長尾家の足跡が残されています。今回は刀剣類についてお話しします。

戦後、長尾美術館で所蔵していた新国宝（註3）のうち多くが刀剣類です。よねは多くの名刀を蒐集したばかりでなく、戦後の刀剣処理問題（後述）の解決に寄与した一人としても、刀剣蒐集の分野では伝説的な人物としてその名が知られています。

1932（昭和7）年に古刀研究の権威の本間順治（註4）の指南のもと、戦後に国宝となる南北朝時代の旧重要美術品「太閤左文字」の短刀を購入しました。これを契機に、その後長尾家は旧国宝級の刀剣類を買い集め、その道でも知られた存在となりました。

長尾家が蒐集した刀剣類はその多くが旧国宝または重要美術品でした。その中から「太閤左文字」「来国光」「九鬼政宗」について刀剣研究家の土子民夫氏の解説文で紹介します。

「太閤左文字」（図1）

中心の表に「左」、裏に「筑州住」と細鑿で銘を切り分ける。この作者を古くから左・左文字・大左と呼び習わしてきた。本作は『光徳刀絵図』に「御物」として掲載され、すなわち太閤御物、豊臣秀吉が愛蔵したものであったところから、「太閤左文字」の号がある。小ぶりではあるが、左文字の作中最も優れ、また特徴が遺憾なく発揮されている。

長尾家から離れた後、数人の所蔵を経て、現在は広島県・ふくやま美術館が所蔵している。

この「太閤左文字」は1932（昭和7）年に2,680円で落札されています。非常に格安で、しかもそれが後に国宝になったということですから。少し傷や錆があつたさうですが、よねはどうしてもこれが欲しいという事で入手しました。よねの審美眼はこのことでもわかります。

「来国光」

国光は鎌倉時代、山城国に住した来派の刀工である。現存する作品は比較的多いが、いずれも地刃に時代の特徴を備え、優れている。本作は播磨国明石藩主松平家に伝来したもので、当主である松平直頼子爵による「刀剣譲渡及代金領収證」が残っている。これは長尾家の書簡に紛れて残っていたものです。これによれば、現在では1億数千万円に相当する譲渡額であった。



図1 太閤左文字
短刀 銘 左 筑州住(号太閤左文字)刃長7寸8分 1933(昭和8)年7月25日重要美術品認定、1934(昭和9)年1月30日旧国宝指定、1952(昭和27)年11月22日国宝指定) ふくやま美術館所蔵 写真:土子民夫氏提供
※下の収容箱には「国寶左文字短刀 長尾家」と墨書きがあります。

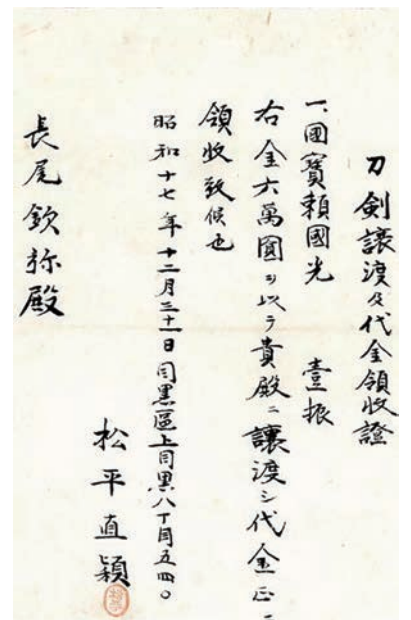


図2 来国光 刀剣譲渡及代金領收證
1933(昭和8)年10月31日重要美術品認定、1935(昭和10)年4月30日旧国宝指定、
現在重要文化財 証書:長尾美術館所蔵

同銘の重要文化財の太刀は10口存在しますが、今どこにあるのか不明です。

「九鬼正宗」

九鬼長門守守隆から徳川家康に献上され、紀州徳川頼宣を経て伊予西条松平家に伝来。子爵松平頼和から長尾家が購入したと思われる。昭和33年1月に松平頼庸^{よりつね}に移り、その後、林原美術館が購入した。無銘ではあるが、正宗の短刀中でも特に出来が優れ、かつ健全である。

よねと刀剣蒐集ということになると、刀剣処理問題に触れないわけにはいきません。佐藤貫一著「刀剣鑑定手帖」には終戦時に於ける刀剣処理問題の経緯について詳しく書かれています。一部を抜粋します。

1945(昭和20)年8月20日付連合国軍の命令では、海外派遣軍の武器のみならず国内のあらゆる武器を一定の場所に集めて、いつでも連合国軍に引渡さるよう

に処置せよ。その中に明らかに日本刀なる語がうたわれていた。しかしこの命令が同年の9月14日になって、刀剣に関しては「善意の日本人が所有する骨董的価値ある刀剣は審査の上で日本人に保管を許す」と改められた。

この間の経緯について、本間順治「薫山刀話」の終戦秘話に書かれています。それによると、本間は困ったときによく相談している有名な女傑、長尾のばあさん(よね)に相談したところ、よねは「東久邇宮^{註5}」に直接談判するほかはない、それには、その東久邇さんと学習院時代からの非常な親友で当時東大の教授をしておった児島喜久雄さんと一緒になさい」と言う。そこで、児島と同道して東久邇宮を訪ねたのが、ちょうどミズーリ号の艦上で日本降伏の

調印式が行われたあの日、昭和20年9月2日でした。

東久邇宮は「むこう(連合国、事実上はアメリカ合衆国)に話すけれども近衛文麿にもこのことをよく話しておいて」と言ったとのこと。あの当時、連合国軍側の近衛さんに対する信頼はかなり強力であったようで、まもなくの9月14日に命令が改められました。

その後、刀剣返還請求のやり取りの窓口である米第八軍憲兵司令部との交渉が続き、司令官キャドウェル大佐の尽力により1946(昭和21)年5月14日付で刀剣救助の覚書が発せられました。

内容は次のようなものでした。

- ・ 刀剣の審査権は日本政府にゆだねる
- ・ 日本政府はもっとも権威のある刀剣審査委員による審査委員会を組織し、その審査に当たる
- ・ 審査の結果、骨董的価値ある刀剣に対して公安委員会から所持許可証を与える

この覚書により、本間を委員長とする全国60余名の刀剣審査委員会ができ、同年10月14日を期限として全国的に審査が開始されました。

かくて終戦後の刀剣類の大ピンチは、多くの人の理解と協力のもと、

特に本間順治氏の奔走、長尾よねの後押し、そしてキャドウェル大佐の尽力により回避されました。

その後、キャドウェル大佐の助言が大きな推進力となり、1948(昭和23)年2月財団法人日本美術刀剣保存協会が設立されました。初代会長は細川護立(細川家16代当主)、理事の中に瀬戸保太郎^{註6}、そして評議員のなかに長尾欽弥の名前が見えます。第二代会長が本間順治です。

註1.. 昭和初期、7代目小川治兵衛のもとで岩城巨太郎は長尾欽也・よねの本宅と別荘の庭園をまかされたことで、東京進出のきっかけをつかんだと言われている。

註2.. 田中日佐夫「戦後美術品移動史」消えた美術館(芸術新潮1974年2月号)に、長尾美術館旧蔵の文化財一覧では、新国宝8件、重要文化財21件が記載されている。

註3.. 1897(明治30)年の古社寺保存法と1929(昭和4)年国宝保存法の二つの法の下で指定された「国宝」が「旧国宝」。この頃には「国宝」と「重要文化財」の区別はなく、国指定の有形文化財はすべて「国宝」と称されました。これらは1950(昭和25)年8月29日、文化財保護法施行の日付けですべて「重要文化財」に一旦指定され、その中から価値の高いものを改めて「国宝」に指定したのが「新国宝」。現在、国宝指定された工芸品のうち約半数が刀剣類。

註4.. 本間順治は長尾よねの世話により桜新町の長尾邸(宜雨荘)近くに居住し、よねの刀剣購入の際には度々相談のつていた。

註5.. 東久邇宮は当時の総理大臣。長尾家の本宅(宜雨荘)に訪れていた。

註6.. 「関西の広告王」と呼ばれ、「わかもと」を急成長させた人物。刀剣蒐集家。

新刊紹介

「イラスト もう迷わない 庭木の剪定 基本とコツ」

監修 内田均

川原田 邦彦

監修者は、当協会の新会長であり、東京農業大学教授として長年樹木の育成・管理技術などの研究に努められた内田均氏と、植物の収集保存、生産、育種などに詳しい川原田邦彦氏。

本書は、庭木の剪定にチャレンジしてみようという人のための入門書です。内容は「樹木の基礎知識」に始まり、「緑や樹形を楽しむ樹種の剪定のコツ」、「花を楽しむ樹種の剪定のコツ」、「果実を楽しむ樹種の剪定のコツ」と目的に応じた剪定のコツを解説し、最後に庭木選びの参考となる「押さえておきたい樹木管理の豆知識」の全5章でされ、イラスト入りで分かりやすく構成されています。専門家はもちろん、庭を自ら手入れしたいという方にもお薦めしたい一冊です。



『イラスト もう迷わない 庭木の剪定 基本とコツ』家の光協会 2024.3.20 1,400円＋税

『石工芸の伝統と美 京都・西村石灯 呂店の仕事』

編著 西村大造
執筆 尼崎博正

第1章「石工芸の技と美」は、京都市で7代にわたり石工芸を造り続ける西村石灯呂店の7代目西村大造氏の編著により西村家の歴代の作品のうち、代表的な作品60点と西村家が携わった石工芸の「制作」「創作」「復元」「修復」などについて、貴重な写真と分かりやすい解説で紹介されています。第2章「石工芸と茶人」、第3章「構造・機能・物語性からみた石工芸の世界」は、石造美術研究のバイオニアの川勝政太郎博士に最後の弟子として師事された尼崎博正氏の執筆。茶人たちが見出した石造品の芸術的価値と石工さんたちの卓越した技能や創作過程における創意工夫、遊び心までにも迫っています。石造品を専門的かつ親しみやすく解説した1冊です。造園家のみならず、石造品に興味のある方にもお薦めします。



『石工芸の伝統と美 京都・西村石灯呂店の仕事』淡交社 2024.4.6 2,200円＋税

『清澄庭園の魅力さをぐるゝ近代庭園の原点』

(一社)日本庭園協会 発行

本書は、当協会創立100周年記念事業の一環として実施したプロジェクト「清澄庭園を国指定名勝に！」において企画した連続講演会（6回）と、創立105周年記念事業で開催した講演会（2回）の全8回講演の内容を「講演集」として編集したものです。

連続講演会の第1回は連続講演会の発案者である龍居竹之介名誉会長の本冊子と同名の講演にはじまりました。続けて各界からの講師をお招きし、庭園史、建築、地質、植物、造園計画、維持管理など多様な視点から清澄庭園の価値を浮き彫りにしています。

岩崎彌太郎が作庭した「深川親睦園」からおおよそ140年。関東大震災後、敷地が半分となり、東京市の井下清らによって「清澄庭園」として開園して90年余。今、改めて清澄庭園の再評価を問う一冊です。



『清澄庭園の魅力さをぐるゝ近代庭園の原点』(一社)日本庭園協会 2024.3.15 非売品

本部・支部だより

全国支部長連絡協議会 報告

2024（令和6）年1月27日（土）

埼玉県支部長 山田 祐司

全国支部長連絡協議会が、2024（令和6）年1月27日（土）14時より、オンライン形式で開催されました。出席者は、全国支部長16名（代理・次期含）、本部から高橋康夫会長、内田均副会長、廣瀬慶寛副会長、他3名の計22名でした。

会議に先立ち、1月1日16時10分に発生した能登半島地震による被害状況について石川県支部長の宮本広之氏より報告があり、会員の中には日常生活に影響する被害を受けた方はいなかったとのことであ堵しました。一方で被害を受けた能登地域に心を寄せ、一日も早い復興を一同で祈念しました。

今回の幹事である埼玉県支部長山田祐司の司会により、本部各委員会と各支部の活動状況、新年度の活動計画および近況などについて報告されました。

会議では、初めに高橋会長から本部運営方針として以下が説明されました。①昨年、臨時総会にて清澄庭園と日比谷公園を国の名勝として推挙することを決議した。本年度これ

を進めていきたい。②今年度は役員改選に当たるため多くの若い人に活躍の場を用意したい。③九州支部の設立を目指す。④多くの市民が望んでいるまだ見ぬ新しい庭の提案を期待したい。

続いて、本部各委員会と各支部から本年度の計画が説明されました(総会報告と同様、16～21頁参照)。会議では次のような意見交換がなされました。

質問(山田埼玉県支部長)・・・支部長連絡協議会にて活動報告等を写真や画像などで見ることができるとよいと思う。

回答(清水哲也技術委員長)・・・本部ホームページにて活動記録をアップするので、活動情報を寄せてください。

例年、会議とともに開催していた見学会は、本部・支部共催で4月20(土)～21日(日)予定であることが発表されました。見学会候補地は埼玉県立いずみ高等学校内の埼玉県支部作成の石の球体、盆栽美術館等です。詳細は後日GSJミニニュースにて案内すると報告されました。

最後に、次回開催担当支部を愛知県支部(高見紀雄支部長)と決議し、散会となりました。

総務委員会

龍居竹之介名誉会長へ農大造園100周年記念式典にて感謝状の贈呈

5月18日(土)、東京農業大学にて同大造園科学科の創立100周年の記念式典ならびに祝賀会が開催されます。式典の中で、現行の農大造園科学科の前身である東京高等造園学校の創設と発展に尽くし、同学科の礎を築いた恩人である3者、上原敬二先生、井下清先生、龍居松之助先生の功績と名跡を称え、その後一族に対し感謝状の贈呈が行われます。

当日は、龍居竹之介名誉会長の式典へのご臨席、ならびに感謝状の受領が予定されています。また今年は龍居松之助先生の生誕140年の節目でもありますので、協会会員の皆様もこの機会にぜひ会場にお集まりください。

なお、式典の後には記念シンポジウム「農大造園の100年を振り返る」とパネルディスカッション「これからの100年を展望する」が行われます。

式典とシンポジウムは参加無料、申込不要です。農大関係者に関わらず、どなたでもご参加いただけます。

(詳細は当協会ホームページを参照)

技術委員会

●第15回庭園技術連続基礎講座
対面とオンラインで開催します。

テーマ・・・樹木の新しい魅力と楽しさを考える

第1回 5月26日(日)

講師・足澤匡氏

第2回 6月30日(日)

講師・川原田邦彦氏

第3回 7月28日(日)

講師・山崎隆雄氏

会場・・・東京農業大学 国際センター2F
時間・・・午後2時15分～4時45分
詳細は改めてお知らせします。

●みんなの緑学 申込受付中

◎後世に伝えたい造園の匠の技と知見

講師・・・野村脩(元監事)

日時・・・6月15日(土) 10時～12時

◎実践・植栽技術論

講師・・・内田均(会長)

日時・・・9月14日(土) 10時～12時

(両講とも)

場所・・・日比谷公園内

緑と水の市民カレッジ

申込・・・日本庭園協会事務局

メール・・・gsj20@m7.dion.ne.jp

FAX・・・03(3204)0595

定員・・・先着30名

受講料・・・各2000円(資料代込)

鑑賞研究委員会

全国支部長連絡協議会・本部共催
4月20日(土) 21日(日)に埼玉

県庭園視察研修会が開催されます。開催の様子は本誌にて掲載予定。

新入会員・氏名(住所)

(2024(令和6)年1月1日から3月31日入会)
正会員／羽多野創太(島根県)、宮村徹之(石川県)、川口利広(佐賀県)、大澤護(神奈川県)、磯田博考(東京都)
(入会順・敬称略)

編集後記

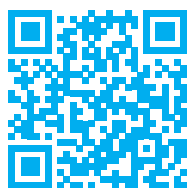
★評議員会、定期総会では活発な意見、質問がありました。新体制への熱い期待が感じられました。

編集担当・・・小沼康子／内田均／中山なつ希
／酒井和佳子
本文デザイン・・・由比まゆみ

SNSのフォロー(購読)を
お願いします



Instagram
インスタグラム



X (旧 Twitter)
エックス (旧ツイッター)